

2019年度 大学全体 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、学部の入学試験要項（E-1～15）に『東海大学は、「建学の精神」に基づき、専門だけにとらわれることなく幅広い視野をもち、自ら考えることで未来を切り拓く多様な人材の育成を目指しています。東海大学はこのことに共鳴し自ら学ぶ意欲をもった人を求めています。』と記載している。大学院の場合は、研究科毎に大学院ガイド（E-16）にアドミッション・ポリシーを記載している。東海大学オフィシャルサイト「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」において学部・研究科毎にディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを掲載し、広く周知を図っている（E-17、E-18）。

なお、文学部のアジア文明学科、ヨーロッパ文明学科、アメリカ文明学科、北欧学科、歴史学科東洋史専攻、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康科学部の看護学科、社会福祉学科は2018年度より学生募集を取りやめたため、2017年度より学生募集活動を行っていない。そのため、この9学科および1専攻については、2019年度においても学科個別の報告書は作成しない。

出願資格は、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）において掲載し、学力については各学部・研究科の期待する知識の内容及び水準を明示している。また、本学オフィシャルサイト（E-23）においても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願を利用する受験生にも対応している。

入学希望者に求める水準等の判定については、個別学力試験の他、面接試験、プレゼンテーション、小論文、実技試験、専門試験等の多様な試験方法を実施することで、各試験制度の目的に沿った水準を設定し、判定を行っている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生の受け入れ方針に基づき、多様な学生を募集するため一般入試、文系・理系学部統一入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試、付属推薦入試など様々な入試制度を設けている。各入試では、面接、調査書、個別学力試験等を用いて、アドミッション・ポリシーの理解及び基礎学力を判定し、選抜している。また、学長を委員長とする入試判定委員会を開催し、合否判定を行っている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）、「東海大学 入試情報」（E-27）、本学オフィシャルサイト（E-23）での周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、業者主催の進学相談会、オープンキャンパスでの個別相談等で情報提供に努めている。これらの説明については、入試広報課職員をはじめ、入学センター職員を中心に大学内の事務部署から選出された入学アドバイザーによって行われている。特に、付属高校生に対しては、学園の方針に従って高大連携を密にし、進学希望者に対して、学科レベルでの全学的説明会を開催し、面談等を通して学科で学ぶために必要な準備を理解させることとしている。

留学生に対しては、本学のオフィシャルサイトの英字サイト（E-28）を通じて、または「留学フェア」への参加や、日本語学校への広報を行い、これらの周知を図っている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、学部入試及び大学院入試について検討を行っている。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、学長・理事長の承認を得ている。また、広報活動についても各学部・大学院より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認が行われている。

以上のような入試制度に関する周知と入試制度の策定・実施・検証・改善のプロセスを取っており、学生募集活動は適切に行われている。

各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）において各学部・大学院の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。また、試験実施に関しては試験日当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの措置によって、受験生の受験時の不安低減に努めている。さらに学力選抜系の入試においては、各地のキャンパスに加え全国主要都市に試験場を設けることで、首都圏以外に在住する受験生の利便性の向上を図っている。

選抜方法や選考方法については、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）において、個別学力試験、小論文、面接試験、専門・実技試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるかを明示している。

試験実施においては、試験日毎に入試実施本部を設置し、各試験場に設置される試験場本部を統括している。試験場本部の責任者は、研究科長、学部長等の長から入試実施本部長が指名し、事務責任者については入試実施本部長が指名する職員となっている。試験当日に発生した事故や障害等については、各試験場本部から入試実施本部へ逐次報告を行い、入試実施本部の指示の下、対応を行っている。（E-29）

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（E-23）に掲載しているほか、学部については「東海大学 入試情報」（E-30）、大学院については「東海大学 大学

院ガイド」（E-31）に記載している。特に学部については「東海大学 入試情報」（E-30）に出願状況の他、競争率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

このように本学を志望する学生に必要な情報を提供することにより、公正で適切な入学選抜を行っている。

また、障がいのある学生については、取組みの基本方針として、

1. 本学の全ての教職員及び学生は、障がいを理由とする修学上の差別の解消に取り組むとともに、障がい学生が、障がいのない学生と平等に教育研究、課外活動等に参加できるよう機会の確保に努めます。
2. 本学は、共生社会の形成に向けて、障がいの有無にかかわらず、全ての教職員及び学生が、相互理解と尊重の精神を培うための教育環境の整備に努めます。
3. 本学は、障がいの有無にかかわらず、すべての学生が、社会で活躍できる人材に成長できるよう支援に努めます。

の3つの方針を掲げている。（E-24）

本学では上記の方針の基に、障がいのある受験生を受け入れており、2019年度は学部全体で298名の学生（うち2019年度の入学生は23名）（E-25）、大学院で2名の学生（うち2019年度の入学生はなし）（E-26）となっている。

受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった受験生については、文書にて本学の特別配慮内容を回答し、特別配慮内容を了承のうえ出願していただいている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度大学基礎データ 表2 学生（E-32）にあるとおり、ここ5年間の各学部の入学定員に対する平均比率は募集停止の学科を除き0.72から1.09となっており、学科単位での増減はあるものの適切に管理されている。

編入学試験については、2019年度は医学部医学科を除き各学科とも概ね0～3名程度となっている。入学定員を若干名として募集を行っていることもあり、質を確保する観点から人数の多少については容受しており、問題なく管理されている。

大学院については、研究科によって充足状況に差異が生じている。これは、学部と異なり研究のトレンドによって出願状況が変動するためであり、質を確保する観点から容認している。学部における入学者数の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げることで防いでいる。また、定員未充足の学科を減らすために補欠合格者を出すことで欠員の回避を行っている。大学院については、入学定員の未充足や超過が発生しているが、著しい定員超過とならないよう厳正な合否判定を行っている。

定員未充足の研究科の多い文系大学院の収容定員に対する在籍学生数比率については、研究科と本学付置研究所との連携を強化し研究活動を活性化することにより、在籍学生数比率の増加につなげる方針を基に継続して取り組んでいる。

一方、2019年度の収容定員に対する各学部の在籍学生比率（収容定員に対する充足率）は、学部によって差があるものの、募集停止の学科を除き0.64から1.06の範囲に収まっており（E-32）、一部に充足率が低い学部があるものの全体として適切に管理されている。大学院においては、研究科間にはかなりの差が見られるが、上述したように、入学定員の未充足や超過に対する対応策をとることにより、序々に適正化が進むよう努める。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受け入れ方針が、適切に運用されているかを入学時の基礎学力テストの結果や入学後のGPAの推移等を利用して入試制度の改革に活用している。入試制度の検討改革は、入試企画専門委員会での検討、入試企画委員会で検討・承認を得ている（E-32）。また、各種入試制度の募集人数については、過去の志願状況を踏まえ、入学センターを中心に検討し、原案を各学部・研究科に提案し、学部・研究科で検討後、承認されている（E-33、E-34）。

5.2. 長所・特色

アドミッション・ポリシーについては、「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）、「大学院ガイド」（E-16）や本学オフィシャルサイト（E-17、E-18）を通じ広く公開されており、本学を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）、「東海大学 入試情報」（E-27）にて適切に情報提供を行っており、また、その周知についても入学センターの職員だけでなく、学内各部署の協力によって動員された入学アドバイザーが積極的に広報活動を展開しており、適切な周知ができているものと評価できる。

志願者数についても、インターネット出願の拡充や複数学科併願時の受験料割引制度の浸透、各入試への参入学部の増加により、ここ5年間の推移は順調に上昇傾向にある。（E-31）

ここ5年間の各学部の入学生定員充足率は募集停止の学部を除き0.72から1.09の範囲に収まっており（E-31）、適切に管理できている。入試企画専門委員会、入試企画委員会、常任広報委員会など各会議体にて学生募集、入学者選抜の公平性や適切性について検討を行っている。ここでの決定を踏まえ、次年度の入試制度改革や新規広報企画の策定等の改善が行われており、検証の仕組みが十分機能していると評価できる。

5.3. 問題点

ここ数年間で、学部入学試験における入学辞退を申請する受験生が増加してきている。（E-36、E-37） また、辞退理由の一つである他大学への進学について、2019年度入試結果（E-36）と2020年度（E-37）を比較すると、上位10校の内容に変化が見られる。順天堂大学は2019年度では併願先になかったが、2020年度では7番目に位置する。また、東京理科大学は2019年度では22番目であったが、同様に8番目に位置している。山形大学についても2019年度では27番目であったが、同様に10番目に位置している。これ以外にも本学よりも偏差値的に上位に位置する大学が併願先の上位に挙げられており、従来本学を併願先と考えていなかった上位の受験者層の受験が増えていることが伺える。この原因としては、長期的な不況により浪人することなく大学に進学するといった、安全志向が受験生間で強まっていることが挙げられる。つまり、確実に合格を得られる大学を受験するために志望校ランクを落とすという受験生心理が現れているということのようである。

ただ、入学辞退者の併願先大学に現れているように、現時点では上位の受験者層を取り込めていない状況が明らかとなっているため、早急な対応を行う。

5.4. 全体のまとめ

入学辞退者数の増加については、学部・学科、研究科毎の特徴や魅力について、受験生への周知をより進めるために本学オフィシャルサイト（E-17、E-18）への誘導を図り、学生募集を展開する。

適切な学生募集活動をさらに発展させるためにインターネット出願を拡充し、本学を志望する受験生の出願の利便性を向上させる。また、入学手続についてもインターネットでの手続きを拡充することで、入学予定者の負担軽減を図る。

5.5. 根拠資料

- E-1 2019年度秋学期 東海大学入試要項 医学部医学科一般編入学試験
- E-2 2020年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）
- E-3 2020年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）第二次選考
- E-4 2020年度東海大学入学試験要項 医学部医学科アドミSSIONズ・オフィス入学試験（希望の星）
- E-5 2020年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（適性面接型 一期・二期）
- E-6 2020年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験〔スポーツ優

秀者（熊本・札幌校舎）]

- E-7 2020年度東海大学入学試験要項 スポーツ・音楽優秀者アドミッションズ・オフィス入学試験
- E-8 2020年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミッションズ・オフィス入学試験
- E-9 2020年度東海大学入学試験要項 スポーツ優秀者特別入学試験
- E-10 2020年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験
- E-11 2020年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験
- E-12 2020年度東海大学入学試験要項 企業推薦入学試験
- E-13 2020年度東海大学入学試験要項 工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻入学試験
- E-14 2020年度東海大学入学試験要項 医学部医学科入学試験（一般入学試験・センター試験利用入学試験・神奈川県地域枠入学試験・静岡県地域枠入学試験）
- E-15 2020年度東海大学入学試験要項 文系・理系学部統一入学試験・一般入学試験・センター試験利用入学試験（医学部医学科以外）
- E-16 東海大学大学院ガイド2020
- E-17 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（学部）<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>
- E-18 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（大学院）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/graduate/>
- E-19 2019年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- E-20 2019年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- E-21 2020年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験（第1期・第2期）要項
- E-22 2020年度東海大学大学院春学期推薦入学試験（第1期・第2期）要項
- E-23 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/
- E-24 東海大学オフィシャルサイト 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて <https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>
- E-25 令和元年度（2019年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査〔提出調査票 7. 学部障害学生数 写し〕
- E-26 令和元年度（2019年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査〔提出調査票 7. 大学院障害学生数 写し〕
- E-27 東海大学 入試情報2020
- E-28 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト <https://www.u-tokai.ac.jp/english/>
- E-29 東海大学入学試験運用組織及び業務分掌規程
- E-30 東海大学 入試情報2021
- E-31 東海大学大学院ガイド2021
- E-32 2019年度大学基礎データ 表2 学生
- E-33 2020年度東海大学学部入試要項人数（2019年度第2回学部長会議資料 08入学㉔-2019報-5）
- E-34 2020年度東海大学大学院入試要項人数（2019年度第2回大学院運営委員会資料 08入学㉔-2019報-9）

- E-35 2020年度東海大学 学部・学科案内 東海大学オフィシャルサイト デジタルパンフレット <http://www.tokai-adm.jp/library.html>
- E-36 2019年度学部入学試験の学費・諸会費返還について（2019年度第2回学部長会議資料_08入学セ-2019報-4）
- E-37 2020年度学部入学試験の学費・諸会費返還について（2020年度第2回学部長会議資料_08入学セ-2020報-4）

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

文学部では、大学の基本的方針に則って3つのポリシーを掲げ、その中で学生受け入れ方針としてのアドミッション・ポリシーを定めて公表している。具体的には、「人類の叡智と歴史認識とを学び、人文学の各専門分野において自らの問題意識に則して現代社会の諸問題を的確に理解する基礎的能力」、「主体的に設定した専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を様々な表現形式を通じて積極的に発信していく能力」、「激しく変動する現代の課題に主体的に取り組み、新たな世界の構築に貢献しようとする姿勢」を備えた者に学士の学位を授与するディプロマ・ポリシーを明示している（資料1-2-1-2）。そしてディプロマ・ポリシーを踏まえ、「ことばを大切にする」ことを基本とした体系的なカリキュラムを各学科・専攻が編成している（資料1-2-1-2）。

文学部におけるこうした教育研究上の目的及び養成する人材像に対し、以下の2つの点からアドミッション・ポリシーを定め、公表している。第一は「求める学生像」で、学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」と定めている。第二として、入学者に求める具体的な「知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度」に関して、「知識・技能」としてはとくに英語、国語、社会に関して高等学校までで身につけておくべきこと、「思考力・判断力・表現力」としては文理融合の観点からの総合する力と発信力、「態度」としては多様な価値観を理解しながらも主体性を持って他者と協働して学ぶ姿勢のそれぞれを定めている（資料1-2-1-2）。

入学試験に関しては、『入試情報』の冊子において、前年度の各教科の入学試験に関する「昨年度の傾向と今年度の対策」の頁を設け、そのなかで出題の基本方針や注意事項などを明記することで各教科の出題範囲や要点などについて受験生への周知をはかっている（資料5-2-1-1）。他方、学力考査型以外のAO入試（学科課題型）や公募制推薦入試では、学科・専攻で課題や口述試験内容を策定し、それぞれの『入試要項』において学科・専攻ごとの課題や口述試験での設問内容を明記している（資料5-2-1-2、資料5-2-1-3）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

東海大学の入試は学部ごとではなく、全学的な入試制度のもとで運営されている。全学的に入試企画委員会を設置し、文学部長が学部代表の委員を務めている。また、この委員会の下に各学部代表の委員から構成される入試企画専門委員会を置き、次年度の入学試験に対する募集方法、選抜制度について検討している（資料5-2-1-4）。文学部としては、全学的な入試制度の中で個別に設定し得る選抜方法（課題や口述試験など）に関して、高校生にとってわかりやすい表現で示すことを心がけ、公表した内容から逸脱した設問を行わないことを徹底している。また、面接試験では、アドミッション・ポリシーに示した知識・能力を確認している。最終的には全学的な入試制度や実施体制に関しては入試企画委員会で決定されるが、この結果は次年度に向けた『入試情報』のなかで公表されている（資料5-2-1-1）。

入学者選抜に関しては、学部長の下で学科長・学科専攻長および各学科・専攻から選出された入試判定委員を中心に、入学者選抜の原案作成がなされるが、学科・専攻間の在籍者数を勘案しながら合理的な判断をしている。また、最終的には学長の下で学部長が出席する全学の入学試験判定委員会において判定が行われている（資料5-2-1-4）。

なお、各入学試験における入学者選抜の公正性を担保する点では、各入学試験の志願者数、受験者数、合格者数について『入試情報』において公表している（資料5-2-1-1）。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率

2. 編入学定員に対する編入学生数比率

3. 収容定員に対する在籍学生数比率

4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

文学部においては、2019年度入学者数／入学者定員に対する入学定員充足率は（以下（ ）は定員）、文学部全体では367名（370名）／0.99であり、各学科・専攻では、文明学科61名（60名）／1.02、歴史学科日本史専攻50名（50名）／1.00、同西洋史専攻50名（50

名）／1.00、同考古学専攻 33 名（30 名）／1.10、日本文学科 85 名（90 名）／0.94、英語文化コミュニケーション学科 88 名（90 名）／0.98 である。

また、2019 年度在籍学生数／収容定員充足率は（以下（ ）は収容定員数）、文学部全体では 2725 名（2600 名）／1.05 であり、各学科・専攻では、文明学科 241 名（240 名）／1.00、アジア文明学科 116 名（120 名）／0.97、ヨーロッパ文明学科 143 名（140 名）／1.02、アメリカ文明学科 109 名（120 名）／0.91、北欧学科 128 名（120 名）／1.07、歴史学科日本史専攻 226 名（210 名）／1.08、同東洋史専攻 93 名（80 名）／1.16、同西洋史専攻 200 名（200 名）／1.00、同考古学専攻 118 名（120 名）／0.98、日本文学科 378 名（360 名）／1.05、文芸創作学科 124 名（110 名）／1.13、英語文化コミュニケーション学科 393 名（360 名）／1.09、広報メディア学科 245 名（220 名）／1.11、心理・社会学科 211 名（200 名）／1.06 である（資料 5-2-1-5、資料 5-2-1-6）。

以上の数値から、収容定員に多少の超過が見られるが、学生数はほぼ妥当である。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点 1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点 2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

東海大学では各入学試験において要項人数を定め、各判定会議において入学者人数を把握し、その都度、点検を行っている。また、年度末に最終の判定会議を設け、最終的な受け入れ人数について点検を行っている（資料 5-2-1-1、資料 5-2-1-5、資料 5-2-1-6）。

5.2. 長所・特色

東海大学では全学で統一した入試制度を実施しており、入学試験について適切な管理、運営が行われている。文学部に関しては、その入学試験制度の下で、各入試において適切な入学者数を確保している。

5.3. 問題点

東海大学の入学試験は全学的に統一した体制で実施され、全体の運営としてスムーズさがある反面、試験科目の選択など学部・学科の自由度が少ないことも事実である。文学部としては学部・学科の特色を生かした入試の導入の検討を進める必要がある。

5.4. 全体のまとめ

文学部では、全学的な入試制度の下で適切な入学者選抜がはかられている。

5.5. 根拠資料

- 1-2-1-2 東海大学オフィシャルサイト文学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、
3つのポリシー

<https://www.u->

[tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html](https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html)

- 5-2-1-1 東海大学入試情報

- 5-2-1-2 アドミッション・オフィス入学試験 入学試験要項

- 5-2-1-3 公募制推薦入学試験 入学試験要項

- 5-2-1-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程

- 5-2-1-5 2019年度 大学基礎データ 表2 学生

- 5-2-1-6 2019年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者の推移

2019年度 文化社会学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

文化社会学部では、本学の学位授与の方針に従い、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、学授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、それらの方針を踏まえた学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めて、東海大学オフィシャルサイト（資料1-2-2-4）で公表している。

学生の受け入れ方針には、『求める学生像』と『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』が記載され、各学科への入学に際して修得しておくべき知識等の内容・水準については、各種「入学試験要項」（資料5-2-2-1）および東海大学オフィシャルサイト（1-2-2-4）において出願資格と併せて明示している。なお、障がいを持っている学生については、「東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて」（資料5-2-2-5）に沿って対応している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

文化社会学部では、学生の受け入れ方針に基づき、一般入試、センター試験利用入試、付属高校推薦入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0入試など様々な入学者選抜方法により、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。各入試の学生募集方法や入学者選抜方法は、各種「入学試験要項」（資料5-2-2-1）および東海大学オフィシャルサイト（1-2-2-4）を通じて学外へ周知している。

本学では入学センターが留学生入試を除く各入学試験の運営を担い、国際教育センターが留学生入学試験の運営を担っている。各学部は両センターの指示に従って入学試験を実施し、学部が作成した判定案を、学長が委員長を務める入試判定委員会において審議し、

合否判定が行われる。このような運営体制のもとで入学者選抜は公正に実施されている。

前年度の入試結果については東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-2-4）に掲載しているほか、「東海大学入試情報」（資料 5-2-2-2）に各入試の結果の他、出願状況、得点率などを掲載することで、学生の受け入れ方針に沿った学生を受け入れていることを示している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

文化社会学部の入学定員（450名）に対する2019年度の入学者数の比率は、入学者数463名で1.03倍である。学科ごとでは、アジア学科は入学定員70名に対して74名で1.06倍、ヨーロッパ・アメリカ学科は入学定員70名に対して74名で1.06倍、北欧学科は入学定員60名に対して63名で1.05倍、文芸創作学科は入学定員60名に対して60名で1.00倍、広報メディア学科は入学定員100名に対して101名で1.01倍、心理・社会学科は入学定員90名に対して91名で1.01倍である。アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科の入学者数比率がやや高いが、全体としては適正に管理されていると判断できる（資料5-2-2-3）。

文化社会学部の収容定員は1800名であるが、2019年度は開設2年目のため収容定員は900名となり、在籍学生数は910名で、比率は1.01倍である。学科ごとには、アジア学科は収容定員140名に対して144名で1.03倍、ヨーロッパ・アメリカ学科は収容定員140名に対して140名で1.00倍、北欧学科は収容定員120名に対して121名で1.01倍、文芸創作学科は収容定員120名に対して119名で0.99倍、広報メディア学科は収容定員200名に対して203名で1.02倍、心理・社会学科は収容定員180名に対して183名で1.02倍である。全体として0.99倍から1.03倍の範囲に収まっており、適正に管理されていると判断できる（資料5-2-2-3、4）。

上記のとおり、学部開設2年目は入学定員に対する入学者比率、収容定員に対する在学生比率ともに適正に管理されているが、2021年度の完成年度に向けて、より適正な管理を行っていく。

なお、2019年度は学部開設2年目であるため編入学生は在籍していない（資料5-2-2-3）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

文化社会学部では、学部長・学科長・教務委員から構成される運営委員会が中心となり、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-2-2）や「大学基礎データ」（資料 5-2-2-6）に掲載される各種入学試験の試験結果、各学科が実施する付属高校からの推薦入学合格者との面談、アドミッションズ・オフィス入試・公募推薦入試等での面接試験の結果、各種入試で入学した学生の成績等を踏まえて、受け入れ方針の告知の仕方や入学者選抜基準について点検・評価を行っている。その結果として各入試における実施上の問題点、改善要望事項がある場合は、入試企画専門委員会に対して学部代表の委員（学部長）を通じて改善・向上に向けた取り組みを提案している。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

文化社会学部では、大学基準に沿って学生の受け入れ方針を定め、公表しており、その方針に沿って学生募集及び入学者選抜の制度及び運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。また、各入試の学生募集方法や入学者選抜方法に加えて、前年度の入試結果の他、出願状況、得点率などを公表している。さらに、学部開設の初年度は入学定員に対する入学者比率、収容定員に対する在学生比率ともに適正に管理されており、2021年度の完成年度に向けて今後もより適正な管理を行っていく。

5.5. 根拠資料

1-2-2-4 東海大学オフィシャルサイト

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/cultural_and_social_studies/educationpolicy.html

5-2-2-1 入学試験要項

5-2-2-2 東海大学 入試情報

5-2-2-3 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生

5-2-2-4 2019 年度 大学基礎データ 表6 在籍学生数内訳、留年者数、退学者数

5-2-2-5 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて

<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>

5-2-2-6 2019 年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移

〔第5章〕 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

政治経済学部における学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、本学オフィシャルサイトにおいて掲載し、周知を図っている（資料 5-2-3-1）。政治経済学部及び各学科のアドミッション・ポリシーは共通（資料 5-2-3-2、5-2-3-3、5-2-3-4）であり、以下の通りである。

政治経済学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

政治経済学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会の中から数科目）を通じて、政治、経済、経営に関する内容の基礎を理解していることが望ましい。

数学および理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

社会で発生する様々な課題に対して自分なりに考え、どのような解決策が望ましいかを文系・理系の知識・技能を総合して判断し、適切に表現できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して友好な人間関係を構築できること、および目標を実現するために継続的に努力すること。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生の受け入れ方針にもとづき、一般入試、センター試験利用入試、AO入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、留学生入試など、多様な学生を募集するため、様々な入試制度によって学生募集、入学者の選抜を行っている（資料5-2-3-5）。多様な種類の入試を企画、実施するにあたり、学部からも委員を選出している入試企画専門委員会が大学に設置されており、問題点があれば検討がなされるため、適切性に問題はない（資料5-2-3-6）。

学生募集の方法、入学者選抜の周知については、「入試情報」、大学オフィシャルサイトで行われている。また、各入試の結果については、「入試情報」に掲載し、受験者の参考に資するとともに、透明性を高めている（資料5-2-3-5）。各種入試の中でも、学力系以外の入試においては、受験者に入試の趣旨・特性を周知し、選抜に携わる各教員もそれを確認することで公正かつ適切な選抜を実施している（資料5-2-3-7）。また、障がいをもつ学生に対しても合理的な配慮に基づいて公平な入学者選抜を実施するように努めている（資料5-2-3-8）。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

政治経済学部の過去5年間の定員充足率は1.06前後であり、また、2019年度の収容定員に対する在籍学生比率は1.01である。年度、学科によって差があるものの適切に管理されている（資料5-2-3-9）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受入れ方針が適切に運用されているか、入学センターと連携を取りながらデータをチェックしている。入学センターによる入学後の追跡調査の結果等を踏まえ、入試種別ごとの入学後の学修状況などを把握し、各学科長が中心となって、学部長と協議しながら、入試種別ごとの目標人数、各学科における指定校推薦の際の指定校選定見直しなどを実施している。これらの協議、見直しについては各年度末に実施している。こうした手続きを通じて、受入れ方針に合致した学生の確保に努めている（資料5-2-3-10）。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

受け入れ方針を定め、その方針に沿って適正に学生を選抜・受け入れており、また、必要に応じて見直しも行っているため、全体としては適切に運用されている。

5.5. 根拠資料

5-2-3-1 政治経済学部 アドミッション・ポリシー

5-2-3-2 政治経済学部政治学科 アドミッション・ポリシー

5-2-3-3 政治経済学部経済学科 アドミッション・ポリシー

5-2-3-4 政治経済学部経営学科 アドミッション・ポリシー

5-2-3-5 東海大学入試情報

5-2-3-6 東海大学短期大学部入学試験運営組織及び業務分掌規程

5-2-3-7 アドミッション・オフィス入学試験 入学試験要項

5-2-3-8 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて

5-2-3-9 2019年度 大学基礎データ 表2 学生

5-2-3-10 東海大学学部教授会規程

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

法学部の学生受入方針は、大学オフィシャルサイト（資料 1-2-3-3）にアドミッション・ポリシーとして明示されている。このアドミッション・ポリシーにおいて、本学部は『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』を以下のように明示している。

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること及びそれらの発信ができることが期待できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、良好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと及び失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

また、入学試験要項（資料 5-2-4-1）においては、出願資格として「1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び 2019 年 3 月卒業見込みの者」等を列挙し、試験の種別ごとに試験科目を指定している——例えば一般入学試験（A 方式）であれば英語（コミュニケーション英語ⅠⅡⅢ、英語表現ⅠⅡ）、国語（国語総合（古文漢文を除く））、選択科目（数学Ⅰ・Ⅱ・A、日本史B、世界史B、政治・経済から1科目）。これらにより入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準が示されている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生受入方針を明示して学生募集を行うとともに、全学の制度的・統一的な取組の中で、学力選抜入試、推薦入試等により公正に、かつ、開示に堪える資料的透明性をもって入学者選抜を行っている（資料 5-2-4-1）。

各入学試験の運営は入学センターが担い（留学生入学試験の運営は国際教育センター）、同センターの指揮の下で入学試験が実施されている。

各種の入試を企画・実施するにあたり、各学部の教員をその構成メンバーとする入試企画専門委員会（資料 5-2-4-2）において全学的な入試の企画・実施が整備・検討されている。加えて、AO入試・公募制推薦・指定校推薦入試の実施にあたっては、学部内に入試実施委員会を設置し（資料 5-2-4-2）、同委員会が中心となって問題・評価項目の作成を行い、教授会においてその適切さを毎年度点検している（資料 5-2-4-3）。当該試験における面接には2名の教員があたるだけでなく、複数の評価項目をポイント化して選抜を行うことにより面接担当者の恣意が介入することを極力排除し、その公正さを担保している。

選抜にあたっては、学部が作成した予備判定案を、学長を委員長、各学部長をその構成員とする入試判定委員会において審議し、合否判定が行われている。

以上のとおり、選抜実施体制を適切に整備することにより、各種の入試は公正に実施されている。

身体機能等に障がいのある志願者に対しては、入試試験要項（資料 5-2-4-1 7頁）にも記載があるように、入学試験の実施に当たり特別配慮がなされている。また、障がいのある学生については、入学前に、修学上配慮の必要な事項の確認が教学部よりなされ、学部において対応可能な事項については個別に対応している。（資料 5-2-4-4）

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率

2. 編入学定員に対する編入学生数比率

3. 収容定員に対する在籍学生数比率

4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

法学部の2019年度における入学定員は300人（入学者数293人、入学定員充足率0.98）、収容定員は1200人（在籍学生数1225人、収容定員充足率1.02）である。定員は適切に設定されており、これに見合った数の学生を受け入れている（資料5-2-4-5、5-2-4-6）。各入学試験における合否判定を厳正に行い、定員未充足、定員超過を可能な限り防いでいる。

2019年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
1,225	1.02	1.05

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

法学部、教授会において、学部内に設置した入試実施委員会（資料5-2-4-2）および各種入試の実施担当教員が中心となり、募集計画案の検討、同委員会作成の問題・評価項目の点検、予備判定案の審議と共に、付属推薦入試合格者との面談、A0・公募推薦・指定校推薦入試等での面接試験の結果および各種入試で入学した学生の成績等を踏まえて、受け入れ方針について随時点検・評価を行い、オフィシャルサイト上で公表している。（資料1-2-3-3、5-2-4-7）

5.2. 長所・特色

学生の受け入れ方針を明示し、それに基づいて学生募集、入学者選抜を行うことにより、また、定員を設定・管理することにより、学部の理念・目的及び教育目標の効果的な実現が図られている。

5.3. 問題点

学部のアドミッション・ポリシーや入学するに当たって修得しておくべき知識の明示についてはより一層進める必要がある。また学部において実施する入学試験における入学者選抜の検証結果を効果的にどうやって今後の改善に結びつけるかを検討する余地がある。

5.4. 全体のまとめ

学生の受け入れ方針を基礎とした適切な選抜方法の採用・運用及び適切な学生収容定員・在籍学生数を維持するとともに、これらのことを通じて教育成果を上げている。

5.5. 根拠資料

- 1-2-3-3 東海大学オフィシャルサイト 法学部 3つのポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/law/educationpolicy.html>
- 5-2-4-1 2019 年度入学試験要項
- 5-2-4-2 2019 年度学部内諸委員一覧
- 5-2-4-3 2019 年度第 7 回教授会開催通知
- 5-2-4-4 2019 年度特別配慮入学生一覧
- 5-2-4-5 2019 年度 大学基礎データ 表 2 学生
- 5-2-4-6 2019 年度 大学基礎データ 表 3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者の推移
- 5-2-4-7 2019 年度第 6, 8, 10 回教授会開催通知

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミSSION・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミSSION・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

教養学部における学生の受け入れ方針は、大学全体の方針の下に定めた教育研究上の目的及び養成する人材像、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、アドミSSION・ポリシーとして定めている。

学部のアドミSSION・ポリシーは、「教養学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。」として、「東海大学オフィシャルサイト」（資料 1-2-5-10 アドミSSION・ポリシー）で明示・公開している。また、各学科・課程のアドミSSION・ポリシーについても同様に明示・公開している。

入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準、またその判定方法については、各種「入学試験要項」（資料 5-2-5-1）において出願資格と共に明示している。また、障がいのある学生についても、各種「入学試験要項」（資料 5-2-5-1）において「受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者は、受験方法等について事前に問い合わせ」を行うよう記載している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミSSION・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

入学者の選抜は、大学全体及び学科・課程がそれぞれ定めるアドミSSION・ポリシーに基づき、各種の入学者選抜制度（『一般入学試験』や『大学入試センター試験利用入学試験』を始めとする「学力選抜型入試」のほか、学生の個性を重視する『A0 入試』や『推薦入試』など）を通して実施されている。

またそれぞれの学生募集方法は、「東海大学オフィシャルサイト（受験生の方へ）」（資料 5-2-5-2）、入試情報誌「東海大学入試情報」（資料 5-2-5-3）及び「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-5-1）などにより明示・公開されている。

入学者の選抜基準については、学内に設置される「入試企画委員会」「入試企画専門委員会」などにより学部・学科・課程の意見を取り入れて決定され、各種「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-5-1）に記載されている

それぞれの選抜基準に従った合否判定案は、学部長、学科長、副学科長の合議を経た後、学長の下に開催される「入試判定委員会」にて全学的レベルで検討するなど、複数段階の合否判定の検討が行われており、入学者選抜における公正性・透明性を確保するための適切な措置がとられている（「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」 資料 5-2-5-4）。

身体機能等に障がいがあり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者については、入学センター入学課で事前の問い合わせを受け付け、必要とする配慮の内容について検討し、特別配慮内容（試験時間延長、支援者の介助など）を回答する旨、「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-5-1）に記載している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点 1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

< 学士課程 >

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程 >

収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員に対する入学者比率は、「2019 年度大学基礎データ 表 3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移」（資料 5-2-5-5）に示される様に、学部全体で 1.03（人間環境学科と芸術学科が 1.01、国際学科が 1.08）となっており、適切に管理されている。また収容定員に対する在籍学生数比率については、国際学科が 1.15 と若干高いものの、人間環境学科と芸術学科が 1.01 であり、学部全体では 1.04 と適正に管理されている（資料 5-2-5-6）。

編入学定員は各学科課程とも募集要項に「若干名」とされており、編入学生数比率を求めることは叶わない。

平成 27 年 4 月 17 日付の大学基準協会からの「改善報告書（大基委大評第 8 号）（大学基準協会「改善報告書検討結果（東海大学）」）」（資料 5-2-5-7）において、人間環境学科及び芸術学科では、推薦入試や A0 入試で入学者数が定員の 2 倍を超えており改善を要すると指摘された。2019 年度の推薦入試（附属校推薦及び指定校推薦、公募推薦との合算：春学期）においては「東海大学 2019 年度大学基礎データ 表 3」（資料 5-2-5-6）に示されるように、人間環境学科が 1.49 倍、芸術学科が 1.34 倍と改善されている。また附属校推薦単独で見ても、人間環境学科で 1.42 倍、芸術学科で 1.67 倍、国際学科で 1.65 倍となっており、総じて改善傾向が見えている。また A0 入試においては、芸術学科が 1.56 倍と改善したものの、人間環境学科は 3.22 倍、さらに国際学科も 2 倍となっており、引き続き改善の必要がある。

2019 年度の在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学 者数比率（5年間平均）
1,379	1.04	1.09

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

受け入れの適切性に関しては、毎年4月に開催される第1回学部長会議において、入学センターから入試種別毎の要項人数を定めた「東海大学学部入試要項人数（案）」が示され、その案を元に各学科会議、課程会議で点検、ならびに審議が行われている。更にその後開催される第1回学部教授会において、各学科で纏められた案を踏まえ、「入試要項人数」に関する審議を行っている（資料5-2-5-8 教授会開催通知）。

そしてその結果は入学センターに伝えられ、当該年度の要項人数が決定される手順となっている。

5.2. 長所・特色

教養学部では入学前学習の一環として、全ての学科・課程で、A0・推薦系合格者に「研究レポート」（資料5-2-5-9）や、入学までに提出を求める「大学入学準備課題」（資料5-2-5-10）を課している。

これらの取り組みにより、入学予定者に大学での学習に対する心構えを持たせ、併せて専門分野に対する理解を深めさせ、入学後のスムーズな学習に備えている。

5.3. 問題点

文部科学省の経常費補助金の配分基準厳格化に伴い、各入試での入学手続き者数の見積もりが難しくなっている。このことは合格者数や合格最低ラインをどこに置くかの決定にも大きな影響を及ぼし、特に学力系入試において補欠合格者を出すことで全体の調整を図る方法を探らざるを得なくなっている。

5.4. 全体のまとめ

教養学部では、学部はもとより学科・課程毎に「学生の受け入れ方針」や各種の「入学者選抜制度」ならびに「選抜基準」を大学のオフィシャルサイトや各種印刷媒体で明示している。また「入学者選抜」に関しては、課程、学科、学部で原案を作成し、学長の下に於かれた「入学試験判定委員会」に於いて合議で決定されるなど、公正に実施している。

学生受け入れの適切性に関しても、年度毎に審議確認が成されており、入学定員に対する入学者比率や、収容定員に対する比率に関しても、適切に管理されている。

5.5. 根拠資料

- 1-2-5-10 東海大学オフィシャルサイト 教養学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、
3つのポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/educationpolicy.html
- 5-2-5-1 東海大学入学試験要項
- 5-2-5-2 東海大学オフィシャルサイト（受験生の方へ）
- 5-2-5-3 東海大学入試情報
- 5-2-5-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-5-5 2019年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・
入学者数の推移
- 5-2-5-6 2019年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-5-7 改善報告書（大基委大評第8号）（大学基準協会「改善報告書検討結果（東海大学）」）
- 5-2-5-8 2019年度 教養学部 第1回 教授会開催通知
- 5-2-5-9 研究レポート課題
- 5-2-5-10 大学入学準備課題

2019年度 体育学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

東海大学オフィシャルサイト（<https://www.u-tokai.ac.jp>）において、体育学部及び各学科はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとともに、アドミッション・ポリシーを公表している（資料1-2-6-2）。その内容・項目は、(1) 知識・技能、(2) 思考力・判断力・表現力、(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に関するものであり、入学希望者に求める能力を明示している。

このことから、学生の受入方針を適切に設定し、公表を行っている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生募集及び入学者選抜制度や運営体制については、全学的な入試企画委員会が設置され、体育学部長が学部代表として委員を務めている。また、この委員会には入試企画専門委員会が置かれ、学部代表委員によって学生募集の方法や入学者選抜制度についての検討がなされている（資料5-2-6-1）。入学者選抜の種別やスケジュールの全ては、入試情報として印刷媒体で公開している（資料5-2-6-2）。また、入学試験要項において、入試種別ごとにアドミッション・ポリシーが明示され、募集人員、日程、選考基準、選抜方法などを詳細に公表している（資料5-2-6-3、資料5-2-6-4）。入学試験の実施については、学長を統括責任者とする「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」（資料5-2-6-1）に則り、その責任の所在を明確にしている。

身体機能等に障がいがあり、受験及び入学後の授業、キャンパスライフ等で特別配慮を必要とする志願者により、配慮希望の問い合わせがあれば、本学では特別配慮内容を回答し、可能な限り公平な入学者選抜を実施している（資料5-2-6-5）。

このことから、学生募集や入学者選抜の制度や運営体制は適切に整備され、公正に実施している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度体育学部の入学定員は480名、入学者数は486名であり、入学者数比率は1.05であった。過去4年間の収容定員に対する在学学生比率も、2016年度1.08、2017年度1.07、2018年度1.04、2019年度1.02である（資料5-2-6-6）。また、2019年度編入学生は0名であった（資料5-2-6-7）。東海大学オフィシャルサイト（<https://www.u-tokai.ac.jp>）には当該年度の学生数が公表されている（資料5-2-6-8）。このことから、在学学生数を収容定員に基づき適正に管理している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

体育学部の学生受け入れについては、入学課が速報として作成する学科別・試験日別・種目別志願者人数表があるが、それらの資料に基づき、各入試種別において点検・評価を行っている。その業務は体育学部入試委員会が役割を担い、学部長及び学科長に提案されることになっている（資料5-2-6-9）。改善等が必要となる場合には、教授会の審議事項として提案され、審議される手続きがとられる（資料5-2-6-10）。

これらのことから、入学試験結果をもとに、改善・向上の取り組みを行っている。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

学生の受け入れ方針などを適切に公表し、その制度や運営体制も整備しており、入学者選抜は公正に実施できている。在籍者数の管理も十分できて、定期的な点検・評価も継続できている。

5.5. 根拠資料

- 1-2-6-2 東海大学オフィシャルサイト 体育学部及び 5 学科 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 5-2-6-1 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-6-2 東海大学入試情報 2020 入試実施表 入試ラインナップ
- 5-2-6-3 東海大学 2020 年度入学試験要項 アドミッションズ・オフィス入学試験
- 5-2-6-4 東海大学 2020 年度入学試験要項 公募制推薦入学試験
- 5-2-6-5 東海大学 2020 年度入学試験要項 公募制推薦入学試験 合理的配慮について
- 5-2-6-6 東海大学 2019 年度基礎データ 表 2 体育学部志願者・合格者・入学者の推移
- 5-2-6-7 東海大学 2019 年度基礎データ 表 2 体育学部への編入学者数
- 5-2-6-8 東海大学オフィシャルサイト 体育学部学生数（2020 年度）
- 5-2-6-9 東海大学体育学部 組織・構造要覧 入試委員会
- 5-2-6-10 教授会議事録 2020 年度体育学部公募制入学試験要項（審議事項）

2019 年度 健康学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

健康学部の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、「東海大学オフィシャルサイト」で次のように明記している（資料 1-2-7-1）。本学部のディプロマ・ポリシーである「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」をもとに、「建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、『健康社会』の実現を目指し、身体的健康、精神的健康、社会的健康で構成される『健康』を総合的に捉え、生じている諸問題の解決を目指していくことです。そして、健康社会の創生には不可欠である、“健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち”、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”を兼ね備えた、『健康をマネジメント』できる人材、すなわち、健康・予防に関するニーズを把握する能力、多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に活用し、サービスをコーディネート、マネジメントできる能力（T字型能力）をもった人材を養成することを理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます」と記載し、広く周知を図っている。

また、本学部に入學するにあたり、求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度についても「東海大学オフィシャルサイト」で明記している（資料 1-2-7-1）。例えば知識・技能の面では、英語、国語、社会、数学及び理科のそれぞれの教科において求める内容を記載している。出願資格については、「入学試験要項」に明示している。また、障がいのある志願者や受験及び就学上特別の配慮を必要とする志願者は入学センターへの問い合わせを行うことが「入学試験要項」に記載されている（資料 5-2-7-1）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

本学部では、一般入試、大学入試センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0入試、留学生入試等多様な学生を受け入れるために様々な入試形態によって学生募集ならびに、入学者の選抜を公正かつ適切に行っている。学生募集の方法や入学者の選抜方法については、「東海大学入試情報」に記載されている（資料 5-2-7-2）。この内容は、「東海大学オフィシャルサイト」でも確認することができる（資料 5-2-7-4）。出願手続きについては、入試制度ごとに異なるため、「入学試験要項」に書類の種別や提出期限等の情報が詳細に記載されている（資料 5-2-7-1）。また、入学試験の結果については、「東海大学オフィシャルサイト」で前年度入試結果として、試験ごと掲載し公開されており、本学部の志願者に有益な情報を提供し透明性を確保している（資料 5-2-7-3）。

入試制度における検討事項に関しては、学部内に入試委員会を設けて審議しているほか、学部代表委員一名が本学の入試企画専門委員会に出席し、検討を行っている。入試の判定方法においても、合否判定の公正さを保つため学部のみで行うのではなく、全学の入試判定委員会で合議の上、公正に判定が行われている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度入学者は208名で定員の比率は1.04、在籍学生数は2学年で405名、収容定員に対する比率は1.01であり、適正に管理されている（資料 5-2-7-4）。2018年度に新設された学部であるため、過去5年間の平均を示すことはできない。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

本学部の入学者受け入れが適正に行われているか、入学センター・入学課において組織的に検証が行われているほか、学科内に入試委員会にて2019年度に検証を行い、入学者の修学状況の把握や入試選抜方法等の基準の検討を行っている（資料 5-2-7-5）。

5.2. 長所・特色

開設初年度から選抜基準の精緻化、入学後の追跡調査の検討等、入学者選抜の適正化の努力をしている。

5.3. 問題点

開設間もないこともあり、本学部のアドミッション・ポリシーの社会的周知をいっそう図る必要がある。

5.4. 全体のまとめ

前述したように、学部内では入試委員会における検証のほか、受験生に向けては HP 等の広報を通じて、アドミッション・ポリシーの一層の周知を図るとともに、選抜基準の精緻化、入学後の追跡調査を進めていく。

5.5. 根拠資料

1-2-7-1 東海大学オフィシャルサイト（健康マネジメント学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー）

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_studies/educationpolicy.html

5-2-7-1 2019 年度東海大学入学試験要項

5-2-7-2 東海大学入試情報 2020

5-2-7-3 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

5-2-7-4 2019 年度大学基礎データ表 2 学生

5-2-7-5 2019 年度第 11 回入試委員会議事録

〔第5章〕 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

理学部及び各学科（数学科、情報数理学科、物理学科、化学科）の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、以下のように明示し、大学オフィシャルサイトに公開している（資料 5-2-8-1）。

「理学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

理学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが期待できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、一般入試、AO入試、付属校推薦、指定校推薦、公募推薦入試、留学生入試を行い、公正かつ適切に入学者選抜を行っている。2019年度入学者のうち一般入試で合格したものの割合(%)は、学部全体としては62.09%、7.12%、18.63%、3.59%、3.59%、4.90%である（資料 5-2-8-2 大学基礎データ表3）。

学生募集方法は、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-8-3）および「東海大学 入試情報 2019」（資料 5-2-8-4）により公開されている。

入学者選抜実施体制は、入試センターで発議し、入試選考会議で諮った後、入試選考委員が決定する。また一般選抜等の入試問題作問については、各学科で推薦された作問責任者が作問委員を取り纏め、機密性を厳重に保持しながら作成し、精度を高めている。さらに作成された入試問題は、編集委員により精査され、出題範囲内や難易度等について検閲が行われている。

各入学者選抜方法は、東海大学オフィシャルサイト、受験雑誌、新聞等のあらゆるメディアを通じて公開している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率

2. 編入学定員に対する編入学生数比率

3. 収容定員に対する在籍学生数比率

4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度大学基礎データ表2（資料 5-2-8-5）にある通り、ここ5年間の入学定員充足率は、理学部全体で0.96から1.09（数学科0.96から1.16、情報数理学科0.95から1.11、物理学科0.98から1.09、化学科0.94から1.05）である。学科によって多少上下動はあるものの理学部全体としては適切に管理されている。

また、2019年度の収容定員に対する収容定員充足率は、理学部全体としては0.98（数学科1.01、情報数理学科1.03、物理学科0.94、化学科0.92）であり（資料 5-2-8-5 大学基

礎データ 表2)、在籍学生数も適切に管理されている。

2019年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
1,248	0.98	1.03

(資料 5-2-8-5 大学基礎データ 表2)

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

理学部学科長会議において各入学選抜終了後に、入試センターから送付された合格者数および入学者数を照会して検証を行っており、選抜方式毎の入学定員などの見直しを行っている。変更が必要な場合は、学部案を大学執行部に提出している。

5.2. 長所・特色

いずれの学科も入学定員充足率は1前後である。また、年々適正值である定員数に近づくよう調整を行い、2017年度から2018年度は1.00から1.05となっていた。2019年度は0.96となり、定員数を若干下回っている（資料 5-2-8-5）。

中途退学者が出ることと考慮すると、現在の入学定員充足率がほぼ適正であると考えられるので、合格判定を慎重に行い現在の入学定員充足率を維持する。

5.3. 問題点

各選抜方式での入学者の割合は、理学部全体では適正であると考えているが、付属校推薦での入学者が募集定員の2倍を超えている学科がある。

付属校推薦での入学者が募集定員の2倍を超えないよう、定員管理を厳しく行う。

5.4. 全体のまとめ

学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、一般入試、AO入試、付属校推薦、指定校推薦、公募推薦入試、留学生入試を行い、公正かつ適切に入学者選抜を行っている。また、入学定員及び収容定員は適切に設定されており、在籍学生数は適切に管理されている。これらの学生の受け入れについては、定期的に検証を行っている

5.5. 根拠資料

5-2-8-1 東海大学オフィシャルサイト 理学部 教育研究上の目的及び育成する人材像、3つのポリシー <https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/educationpolicy.html>

5-2-8-2 2019年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格

者・入学者数の推移

- 5-2-8-3 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
- 5-2-8-4 東海大学 入試情報 2019
- 5-2-8-5 2019 年度 大学基礎データ 表 2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

情報理工学部では「建学の精神」（資料 1-2-9-1）・「本学のミッション」（資料 1-2-9-2）に基づき、学部としての3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシー）を制定している。学生受け入れ方針を定め、学部としてのアドミッション・ポリシーを制定し、これを大学オフィシャルサイト内のホームページ（資料 1-2-9-3）に公開している。

また、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-9-1）において、出願資格を設定し情報理工学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

入学者選抜制度については、大学が定めた学生の受け入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など、様々な入試制度を設けている。学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-9-1）および本学オフィシャルサイト「受験・入学案内」（資料 5-2-9-2）での周知に加え、高等学校での学部説明会等に本学部所属の教職員が出向く、あるいはオープンキャンパス開催の際に個別相談の機会を設けるなどして情報提供に努めている。

入学者選抜実施のための体制整備については、大学全体として各学部・研究科から選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、選抜方法について検討を行っている。本学部としても当該委員会委員の選出を行い、それを明文化している（資料 5-2-9-3）。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員及び収容定員の設定および在学生数の管理については、大学全体で取りまとめている情報「東海大学 Pocket Data 2019 年度版」（資料 5-2-9-4）だけではなく、より詳細なデータ（学科別、入試種別の志願者数、入学者数）である「情報理工学部志願者動向」（資料 5-2-9-5）を歴代の学部長が引き継ぐ形で管理している。

また、収容定員に対する在籍学生数比率の管理については、大学関係者が利用可能なポータルサイトから取得できる「大学・短大 在籍者数一覧」（資料 5-2-9-6）の資料を元に確認作業を行っており、直近5年間に於いて、学部全体としても各学科においても、在籍学生数の過剰および未充足が発生していない事を確認している（資料 5-2-9-7）。

入学定員に対する 入学者数比率 (5年間平均)	編入学定員に対する編入学生 数(編入学定員数0名のため、 5年間の平均者数で示す。)	収容定員に対する 在籍学生数比率 (5年間平均)	2019年度の 在籍学生数
1.09	1.8	1.07	825

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受け入れに関する適切性の検証については、「情報理工学部志願者動向」（資料 5-2-9-5）学科別、「大学・短大 在籍者数一覧」（資料 5-2-9-6）等の資料を、教授会および各学科教室会議において情報共有し、その点検・評価を行っている。また、また入試企画専門委員会における報告・審議の結果等についても、学部教授会等を通じて担当委員から学部全体へ報告（資料 5-2-9-8）されており、学部内においても入試についての意見交換等を行い、入試企画専門委員会へのフィードバックも実施している。

5.2. 長所・特色

人工知能（AI）に代表されるように、ICT 関連技術の急速な発展に伴い、この分野を専門とする技術者に対するニーズの高まりのみならず、学部教員による組織的な学

生受け入れ体制の強化と適正化への努力が功を奏し、少なくとも 2012 年度以降においてほぼ一貫して志願者数の増加を実現することができた。今後とも、これに満足することなく、発展スピードの速い情報理工学関連分野に対応できる高レベルな技術者を輩出できるよう、学生の受け入れを組織的に行っていく必要がある。

5.3. 問題点

2022 年度に予定されている学部編成の改編により、学部として募集定員が 1.5 倍となる。さらにコロナ禍も重なり、これまで以上に受験生獲得に全力で取り組む必要がある。改編後も、すべての学科が適正な志願者数を確保できるよう、今後とも弛まぬ努力が必要な状況である。

5.4. 全体のまとめ

学生の受け入れについて、その方針や入学者選抜方法の制定とその公開、および入学者数や在籍学生数の管理について、おおよそ適切に実施できているものと判断される。また、これらの状況に関して、適切な根拠による点検とその評価も組織的に行っている。

5.5. 根拠資料

1-2-9-1 東海大学オフィシャルサイト「建学の精神」

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>

1-2-9-2 東海大学オフィシャルサイト「第Ⅲ期中期目標（2018 年度～2021 年度）」

https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/

1-2-9-3 東海大学オフィシャルサイト「情報理工学部「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」

<https://www.u->

[tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html](https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html)

5-2-9-1 東海大学 入試情報 2019

5-2-9-2 本学オフィシャルサイト「受験・入学案内」

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/

5-2-9-3 情報理工学部各種委員名簿

5-2-9-4 東海大学 Pocket Data 2019 年度版

5-2-9-5 情報理工学部志願者動向

5-2-9-6 大学・短大 在籍者数一覧（2019.05.01 現在）

5-2-9-7 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生

5-2-9-8 入試企画専門委員会報告メール文面

2019 年度 工学部 自己点検・評価報告書

〔第5章〕 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

全学的な教育研究上の目的及び養成する人材像、学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をはじめとする3つのポリシーについては本学オフィシャルサイト（資料4-2-10-1）に明示されており、これを受けて本学オフィシャルサイト：工学部（資料1-2-10-5）にも学生受け入れ方針と共に『求める学生像』や『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』として期待する知識の内容および水準を明示している。

以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

本学では学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な学生を募集するために学力選抜入試をはじめ推薦入試やアドミッションズ・オフィス入試、留学生入試や編入学試験など各種入学者選抜制度を設けている。学生募集と入学者選抜方法については東海大学受験生情報サイト「デジタルパンフレットライブラリー」（資料4-2-10-2）にて周知すると共に、同ライブラリーに掲載されている「学部入学試験要項」や「入試情報」、工学部各学科専攻「学科案内」等については印刷体の資料も用意している。さらに留学生については、東海大学受験生情報サイト内の「留学生入学試験要項」や本学オフィシャルサイト：英字サイト（資料5-2-10-1）での周知に加え、入学センターと国際教育センターが協働して広報・周知を行っている。

入試制度の策定から試験実施における各事項は、全学的な入試企画専門委員会にて検討される。工学部では委員を選出して入試に関する検討や改善要求を行っている。なお、この委員会の決定事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。

東海大学受験生情報サイト「デジタルパンフレットライブラリー」（資料 4-2-10-2）に掲載されている「学部入学試験要項」には出願資格や出願手続き方法をはじめ、試験上の注意、合格発表と入学手続き方法について記載している。特に出願手続きは入試制度毎に異なるため、必要書類や Web 登録方法の種別と提出期限、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為への対処等についても詳細に記載している。これらの措置によって公正かつ公平な入学者選抜が実施でき、学生の受験時の不安低減に努めている。

入学者選抜（合否判定）は各アドミッション・ポリシーを規範として、入学者選抜試験ごとに入学センター入学課より提示された入学判定資料に基づき、学部入試判定委員会にて厳正なる協議の上に判定案を作成し、工学部長が最終的な判断を行い、上位組織の大学入試判定委員会にて最終的な決定がなされる。さらに各入学試験結果についても「入試情報」に出願状況の他、得点率などを掲載し、合理的かつ公平な入学者選抜が実施されたことを担保すると共に、工学部各学科専攻を志望する学生へ有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。以上のことから、学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点 1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

< 学士課程 >

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程 >

収容定員に対する在籍学生数比率

2015～2019 年度における工学部の入学定員に対する入学者数比率と編入学生数の平均値、収容定員に対する在籍学生比率と 2019 年度在籍学生数は、東海大学 2019 年度大学基礎データの表 2（資料 5-2-10-2）より下表の通りとなる。

入学定員に対する 入学者数比率 (5 年間平均)	編入学定員に対する編入学生 数 (編入学定員数 0 名のため、 5 年間の平均者数で示す。)	収容定員に対する 在籍学生数比率 (5 年間平均)	2019 年度の 在籍学生数
1.03	17	1.04	5656

入学者定員の確保について、各入学試験における合否判定は学部入試判定委員会において厳正に行う。この結果は上位組織の大学入試判定委員会にて再検討され、最終的な決定がなされる。この際、入学課と連携して入学手続き者の数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策を取ると共に、未充足を防ぐために補欠合格を行うことで欠員の回避を行っている。

以上のことから、適切な定員を設定して学生の受け入れを行うと共に、年度や学科専攻単位の変動はあるが在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生募集や受け入れ方針については前述の通り、本学オフィシャルサイトや「入試情報」、さらに「学科案内（工学部各学科専攻）」にて大学をはじめ工学部、各学科専攻のアドミッション・ポリシーが明示されているが、これらは毎年、学部と各学科専攻にて見直しを行っている。なお、学生の受け入れ方針が適切に運用されているかという判断は、入学後の学生追跡調査が入学課により行われ、定期的に検証されている。この結果を踏まえ、入試制度の改革や指定校推薦入試における指定校選定の資料等に活用している。

以上のことから、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っており、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っている。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

平成28（2016）年度以降、定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取り扱い、すなわち入学定員充足率の厳格化（適正化）が始まり、「平成31（2019）年度から入学定員充足率が1.0倍を超える入学者に見合う額を減額する予定」とされていることから、入学定員充足率を（補助金増額措置対象の） $0.90 \leq 0.95 \leq 1.0$ の範囲に収める必要がある。

2019年度における工学部の入学定員充足率は0.99であったが、前述の補助金増額措置の対象範囲に収めた場合、退学者等により収容定員に対する在籍学生数比率の低下が懸念されるため、如何に在籍学生数比率を維持し低下を防ぐかが問題となっている。

5.4. 全体のまとめ

教育研究上の目的及び養成する人材像、学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をはじめとする3つのポリシー、そして各種入学者選抜制度の結果を受けて、工学部ならびに各学科専攻は適切に入学者の確保に努めている。

5.5. 根拠資料

5-2-10-1 東海大学オフィシャルサイト：英字サイト

<https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/undergraduate.html>

5-2-10-2 2019年度 大学基礎データ表2 学生・編入学

2019年度 観光学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

観光学部では、東海大学オフィシャルサイトの「観光学部」アドミッション・ポリシーにおいて学生の受け入れ方針を設定し、公表している（5-2-11-1）。

本学部が『求める学生像』として、「観光学部観光学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材を求めます。」としている。その能力とは、入学者に求める『知識・技能』として英語、国語、社会、数学及び理科に関して必要とする能力を具体的に定めている。『思考力・判断力・表現力』としては「文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能とを総合して応用できること、およびそれらの発信ができることが期待できる」と定めている。『主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度』として「多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること」としている（既出 5-2-11-1）。

こうした方針を理解する入学希望者に対しては、「入学試験要項」において出願資格を設定し本学部の期待する能力および水準を明示している（5-2-11-2）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

観光学部では、文系・理系学部統一、一般入試、センター試験利用入試（前期・後期）、AO入試、留学生入試など多様な学生を募集するため、各種入試制度を採用している（既出 5-2-11-2）。学生募集方法、入学者選抜方法に関する情報は、「受験・入学案内」にて入試概要（入試制度）やオープンキャンパスや学部学科説明会の日程と内容、学費や奨学金制度を公表している（5-2-11-3）。「入学試験要項」には、募集人員、出願資格、試験日程、

試験科目、配点、選抜・選考方法、試験場所、試験上の注意、合格発表・入学手続き等が記載されており、学生募集は公平かつ適切に実施されている（既出 5-2-11-2）。

本学では「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」を定めている（5-2-11-4）。その中で入試企画委員会、入試企画専門委員会学部部会、入試運営本部、入試実施本部及び入試判定委員会により各委員会等の業務分掌を明示している。入試に関する広報については、各学部より選出される常任広報委員から構成される常任広報委員会において検討および承認がなされている（5-2-11-5、5-2-11-6）。

学部においては、大学の各種入試日程に応じて学科長を中心に各入試の担当者を決定して入試に臨んでいる（5-2-11-7）。選考に関しては学科長並びに学部長の承認をもって学部としての判定を行った上で、大学の入試判定委員会で本学部の入試判定委員と他学部の入試判定委員の合議の上公正に判定している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員および収容定員等に関する情報は、東海大学オフィシャルサイト上の「情報の公表」の「学生について」において最新の入学者数、収容定員、在学者数を公表している（5-2-11-8）。本学部は、定員 800 名に対して 8 セメまでの在籍学生（2019 年 11 月 1 日現在）が 838 名と超過率が 1.05 と定員超過の状態である（5-2-11-9）。2019 年度は定員 200 名に対して入学者が 199 名であり、超過率は 0.995 であった。教員間で入学者情報を共有し、他大学との競合状況を把握することにより超過率が 1.00 に近づくように努力している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

本学には入試企画専門委員会並びにその上位組織である入試企画委員会が設置されており、本学部の学生募集と入学者選抜のあり方に関して毎年度検証が行われており、公正かつ適切に入試が実施されるよう努めている（既出 5-2-11-4）。

観光学部においては教授会において学部長会議での入試結果の共有化を図り、入試方法

ごとの能力（特に英語能力および GPA）の進化度を分析している。

5.2. 長所・特色

観光学部の特徴である実務志望者を育成するため、観光に関連する実習・研修科目やインターンシップを含めたキャリア開発科目など観光事業を実体験する科目を充実させている。実習・研修等を通じて「観光・サービス産業やそれらの研究分野に貢献できる人材」の育成に向けた教育を推進している結果、観光産業への就業実績など一定の成果を残している。

5.3. 問題点

近年は東海大学に限らず「観光」を専門とする学部や学科あるいは専攻を置く大学が徐々に増えている。そのため、大学間の競合条件が厳しくなりつつあると同時に入試合格者のうちどの程度の入学生数を見込めるかを予想することが困難になりつつある。その結果、2019 年度の入学者については定員を 1 名割り込んでしまった。

5.4. 全体のまとめ

学生の受入れ方針や受入れ方法および入試の結果に関しては、大学の理念・目的を踏まえた観光学部の取組等はウェブサイト等を通じて、学生、受験生及び教員等に周知するとともに社会に対し公表している。

観光を冠につる他大学が増えるなど、本学部を取り巻く環境は、近年の観光需要の拡大、特に訪日外客の増加に伴い社会の注目度が高まっており、PDCA サイクルを介しつつ、入学生ニーズや意欲に見合って見直しを図っていく。

5.5. 根拠資料

- 5-2-11-1 東海大学オフィシャルサイト（観光学部アドミッション・ポリシー）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html>
- 5-2-11-2 2019 年度東海大学入学試験要項
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-2-16&FL=0&startpage=4
- 5-2-11-3 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/
- 5-2-11-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-11-5 東海大学常任広報委員会規程
- 5-2-11-6 東海大学学部等広報委員会規程
- 5-2-11-7 2019 年度観光学部入試等の担当割り振り表(案)
- 5-2-11-8 東海大学オフィシャルサイト（情報の公表）
https://www.u-tokai.ac.jp/public_information/
- 5-2-11-9 2019 年度第 7 回観光学部教授会資料（学科別在籍人数表）

2019 年度 情報通信学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本学部は、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-1、資料 5-2-12-2）に記載している。「入学試験要項」（資料 5-2-12-3～7）や本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-8）において、出願資格を設定し本学部が期待する知識の内容及び水準について明示している。障がいがある学生の受け入れについては、大学全体の方針「東海大学の障がい学生支援に関する取り決めについて」（資料 5-2-12-9）に則って対応している。「入学試験要項」にて、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は出願前に申し出るよう注意喚起している。以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生の受け入れ方針に則り、学生募集方法や入学者選抜方法を「入学試験要項」、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-12-10）、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-8）、留学生に向けた英字サイト（資料 5-2-12-11）にて周知を行っている。入試企画専門委員会および常任広報委員会に本学部も参加し、また本学部内に設置した広報委員会により学部の広報活動を検討している（資料 5-2-12-12）。「入学試験要項」において、入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」において試験、小論文、面接試験、調査書と合否判定との関連を明示している。入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-8）、「東海大学 入試情報」を通じて本学部を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。以上のことから、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

本学部では、入学定員を320名と設定している。2019年度大学基礎データ表2（資料5-2-12-13）のとおり、定員充足率1.07であり適切に管理されているといえる。

本学部では入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げることと定員超過を防ぐ施策をとっている。以上のことから、適切な定員を設定した学生の受け入れとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受け入れ方針の運用について入学後の追跡調査を入学センターで行い、その結果を入試制度の改革等に活用している。以上の通り、学生の受け入れの適切性の点検・評価および改善・向上に向けた取り組みを行っている。（資料5-2-12-14）

5.2. 長所・特色

本学部では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生受け入れ方針を適切に定めて公表している。そして、学生受け入れ方針に基づいて、学生募集及び入学者選別の制度を適切に整備・運営し、入学者選抜を公平に実施している。また在学学生数についても収容定員に基づいて適正に管理できている。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

学生の受け入れについて大学基準が定めている各点検・評価項目を概ね満足していると判断できる。

5.5. 根拠資料

- 5-2-12-1 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー
- 5-2-12-2 東海大学オフィシャルサイト 情報通信学部アドミッション・ポリシー
- 5-2-12-3 2020 年度東海大学入学試験要項 アドミッションズ・オフィス入学試験（学科課題型）
- 5-2-12-4 2020 年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミッションズ・オフィス入学試験
- 5-2-12-5 2020 年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験
- 5-2-12-6 2020 年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験
- 5-2-12-7 2020 年度東海大学入学試験要項 文系理系学部統一入学試験・一般入学試験・センター試験利用入学試験
- 5-2-12-8 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/each_department/
- 5-2-12-9 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
- 5-2-12-10 2020 年度東海大学入試情報
- 5-2-12-11 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/>
- 5-2-12-12 2019 年度情報通信学研究科・情報通信学部 各種委員一覧
- 5-2-12-13 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-12-14 東海大学オフィシャルサイト 自己点検評価
https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/self_assessment/

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学科のディプロマ・ポリシーについては、大学・学部の方針を受けて設置し、このディプロマ・ポリシーに則ったカリキュラム・ポリシーを設置している。アドミッション・ポリシーについては、海洋学部において設定したポリシーを基に各学科が設定している。また、公表については本学オフィシャルサイト（資料 1-2-13-4）および学部ホームページ（資料 5-2-13-1）にて各学部・学科ごとに掲載している。

学部教育目標を基に設定した各学科の教育目標を実現するための能力について、各種「入学試験要項」（資料 5-2-13-2）において、出願資格を設定し本学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。これらは本学オフィシャルサイト（資料 1-2-13-4）にも掲載している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

各入試において、各学科の受け入れ方針に基づいて、選抜試験が行われている。これらの方針については、それぞれの入学試験要項（資料 5-2-13-2）、東海大学入試情報（資料 5-2-13-3）、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-13-4）で公開し、それに基づき厳正な選抜試験を行っている。

入試の実施については入学センターにより実施体制決裁事項として管理しており、各学部で実施された入試に伴う学科判定案については、学部長と検討し、学部案として入学センターに提出している。以上の措置により、学生募集方法及び入学者選抜方法において適切性を確保している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト 入試情報（資料 5-2-13-4）

に掲載しているほか、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-13-3）に記載している。また、「東海大学 入試情報」には出願状況の他に得点率なども掲載し、入学者選抜の透明性を確保する措置を適切に行っている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

各入試の募集定員については、入学センターより各試験での目標合格者数が提示され、それに基づき各学科での審議結果を海洋学部教授会にて審議している。

収容定員に対し、在籍学生数の管理については、学科定員管理を基本としており、前年の入試結果及び過去の結果を踏まえて、各入試での合格者を入学センター、学部長、学科長が検討し、最終的に各判定会議で決定している。

入学定員に対する入学者比率は、2016年度 98%、2017年度 103%、2018年度 97%、2019年度 100%となっている。海洋学部では編入学定員を持たないが、各学科の収容定員に余裕がある場合に実施している。2016年度には5名、2017年度には4名、2018年度には4名が編入学し、2019年度は1名であった。また、収容定員に対する在籍学生数比率は、2016年度は 1.00%、2017年度 1.01%、2018年度 100%、2019年度 98.0%であった（資料 5-2-13-5）。

継続的に入学定員を満たしていない学科については、学科教員による高校訪問を実施するなどの広報対策を講じている。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

2018年度生より大学統一の基礎学力テストは廃止されたが、外部試験のGTECが導入され、入学者の英語力を客観的に評価できるようになった。また、本学の育成すべき4つの力を評価するため、外部試験を導入した、この結果を各学科に還元し、学科会議などでFD活動として実施している。また、教育支援システムが導入されていることから、入学形態と成績との対比が容易に行えることから、学科教員間で情報共有しやすく、学生指導の

際に入学形態に合わせた指導を行っている。このことから、入学試験の実施結果を多角的に評価できるようになり、これらの状況については、各学科・専攻での会議において情報共有し、学生の受け入れ方針が適切に運用されているかの検討を行っている。

現時点で入学形態の違いによる適切性の評価は学科で行っているが、改善については行っていない。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

海洋学部では、学科毎の充足率が著しく異なっている。特に学科定員を充足できていない学科があるが、将来においてこの分野についても海洋学部としての教育には不可欠なものである。また、少数ながらそれらの分野を学びたいと考えて入学する学生もあることから、その分野をなくすのではなく、組織を変えることで残したいと考えている。これらについては、2022年の改組によって学科を再編することで、解消させたいと考えている。

5.5. 根拠資料

1-2-13-4 東海大学オフィシャルサイト

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/marine_science_and_techno/educationpolicy.html

5-2-13-1 海洋学部ホームページ <http://sdb01.scc.u-tokai.ac.jp/about/index.html>

5-2-13-2 2018年度東海大学入学試験要項

5-2-13-3 東海大学 入試情報

5-2-13-4 東海大学オフィシャルサイト 入試情報

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

5-2-13-5 2019年度 大学基礎データ 表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学生の受け入れにあたっては、本学の建学の精神に基づき、医学部医学科のアドミッション・ポリシーと、学部としてカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定めており、これらは大学オフィシャルサイト（資料 1-2-14-1-1）で公表している。

このうち、アドミッション・ポリシーにおいて、入学前の学修歴や学力水準、求める学生像等について記載しており、これらは、学部が定めるカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合が取れている。また、受験生への周知においては、学科パンフレットや入試要項からもオフィシャルサイトへの誘導を図っている。（資料 5-2-14-1-1）以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表していると判断できる。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

医学部における教育の目標（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）や養成する人物像の達成に向け、各学科多様な手法で入学者選抜制度を設定（推薦系、学力系）し、実施している（資料 5-2-14-1-2）。なお、添付資料に記載がされていない入学者選抜試験として、「付属推薦入学試験」「編入学試験」を実施している。

これらの運営にあたって「一般入試」では、複数日・複数試験場で実施をしており、受験生の配慮を行うとともに、身体に関する障害については事前の本人からの申し出に基づき、個別に試験場での配慮を実施している。

また、選抜段階においては、当該学科以外の教員を含む委員で構成される「判定委員会」で判定を行い、個人を特定する情報（氏名や受験番号、性別等）の記載のない資料が使用されている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

医学部における入学定員の充足率は、医学科 89.0%（秋学期入学の編入学 15 名除く）、となっている。特に医学科は定員の不足が生じた段階で繰上げ合格を出すなど、より厳格な運用に努めている。なお、医学科は秋学期入学の編入学 15 名を加えると充足率は 101.7% となり、定員の厳格な運用が実施されている。（資料 5-2-14-1-3）

また、収容定員に関する在籍比率では両学科とも補助金対象の範囲内（医学科 101.1%（10/1 付））で運用されている。（資料 5-2-14-1-4、5）

以上のことから、適切な定員を設定し、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していると判断できる。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

各学科の教授会において、入学手続き状況・入学者数については報告されている。次年度の入学者選抜の検証や改善提案については、医学科では「入試企画検討委員会」において検討がされ、「入試企画専門委員会」に答申し審議を行う。「入試企画専門委員会」での承認事項は「入試企画委員会」、「学部長会議」での承認を受け、理事長稟議・決裁の後、決定される。

5.2. 長所・特色

学科の意向を汲みながら、推薦系・学力系の多彩な入学者選抜制度を展開し、医師を目指す者という視点から公正に実施をしている。（資料 5-2-14-3）

5.3. 問題点

入学定員の充足においても補欠者に順番を付けて発表しており、欠員補填分の繰り上げ合格の発表を実施していて、特段問題はないと考える。

5.4. 全体のまとめ

学生の受け入れに関し、各種ポリシーの策定・公開は適正に展開されていると判断する。また、入学者選抜の公正・適正についても判定委員会の構成や運用方法に問題はないと判断する。入学定員・収容定員の管理についても問題なく運用が出来ていると判断する。

5.5. 根拠資料

- 1-2-14-1-1 東海大学オフィシャルサイト 医学部 教育研究上の目的及び養成する人物像、3つのポリシー <https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html>
- 5-2-14-1-1 2020年度医学科パンフレット・看護学科パンフレット
- 5-2-14-1-2 2020年度入試実施表
- 5-2-14-1-3 2019年度入試結果（春入学）
- 5-2-14-1-4 2019年4月学科別在籍人数表・2019年10月学科別在籍人数表
- 5-2-14-1-5 東海大学2019年度大学基礎データ（表2）学生

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

大学全体・医学部のアドミッション・ポリシーに則り、看護学科の教育目標に共感できる人材育成を目指しており、目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めていることを公表している（資料 5-2-14-2-1、2）。学生の受け入れ方針の設定は、各種入学試験要項（資料 5-2-14-2-3～5）に明示している。また、これらを基にオープンキャンパスにおいて、学科の求める人材像や学生受け入れ方針を説明している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

看護学科入試委員会を設置（資料 5-2-14-2-6）し、委員長は入試企画専門委員会に出席し情報を共有するとともに変更等が生じた場合、教授のみの会議（学科企画戦略会議）（資料 5-2-14-2-7）で検討し、医学部看護学科教授会（資料 5-2-14-2-8～11）で審議した。公正な入学者選抜に関しては、国家資格取得を目指す必要があるため厚生労働省の定める看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン（資料 5-2-14-2-12）に沿った入学者選抜を行っている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
 <修士課程、博士課程>
 収容定員に対する在籍学生数比率

2019 年度看護学科 85 名定員で入学者数は 84 名、在籍学生比率 0.99 であった（資料 5-2-14-2-13）。2018 年度入試より 3 年次編入生は定員を設けず若干名で募集を行っているが、現在在籍者はいない。収容定員に関する在籍比率は医学科ともに補助金対象範囲内で厳格に運用されている。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点 1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点 2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

2018 年度より医学部に改組改編され、2019 年度はセンター試験利用入試・一般入試応募者が 999 名（資料 5-2-14-2-14）で、2018 年度より 300 名減であった。大手予備校入試難易度予想ランキングにおいては、偏差値 55.0（資料 5-2-14-2-15）で 2018 年度と変わりなかった。医学部看護学科教授会において入試種別の入学手続き者数の報告を行っている。入試企画専門委員会からの審議事項・報告事項に関しては、看護学科企画戦略会議を経て医学部看護学科教授会において審議・報告を行った。

5.2. 長所・特色

国家資格取得を目指すため、学生の受け入れ方針は明確でありアドミッション・ポリシーに明示している。また、入学者選抜においても将来の看護職者を目指す者という視点で公正に実施している。医学部に改組改編したことにより、偏差値の上昇（52.5 から 55.0 に）が図られた。

5.3. 問題点

現状としては特に大きな問題はないが、私立系の看護大学が急速に増加しているため、学生の受け入れに関して、多角的に情報収集し随時検討を行うことが必要である。

5.4. 全体のまとめ

2018 年度に比し志願者が減少したが、質の高い学生確保ができた。2018 年度生から PROG（4 つのカリキュラムテスト）を受験（資料 5-2-14-2-16）し、リテラシーは高い点であるがコンピテンシーは低い傾向にあるため、学修を重ねる中での成長を促す必要がある。

5.5. 根拠資料

5-2-14-2-1 大学全体の3つのポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>

5-2-14-2-2 医学部及び医学部看護学科3つのポリシー[https://www.u-](https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html)

[tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html](https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html)

5-2-14-2-3 2019年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験

5-2-14-2-4 2019年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験

5-2-14-2-5 2019年度東海大学入学試験要項一般入学試験・センター試験利用入学試験

5-2-14-2-6 医学部看護学科入試委員会申し合わせ

5-2-14-2-7 看護学科企画戦略会議議事録（第1回、第3回、第8回、第10回）

5-2-14-2-8 2019年度第3回医学部看護学科教授会議事録

5-2-14-2-9 2019年度第7回医学部看護学科教授会議事録

5-2-14-2-10 2019年度第8回医学部看護学科教授会議事録

5-2-14-2-11 2019年度第9回医学部看護学科教授会議事録

5-2-14-2-12 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン

5-2-14-2-13 東海大学 2019年度大学基礎データ 表2 学生

5-2-14-2-14 東海大学 2019年度大学基礎データ

表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移

5-2-14-2-15 2020年度河合塾 医・歯・薬・保健学系

入試難易度予想ランキング表（私立大）

5-2-14-2-16 「4つの力」のアセスメント全体傾向報告者（2019）医学部看護学科

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学部・学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学オフィシャルサイト上の学部紹介の「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」において、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・指向性」の3つの能力を備えたと認められる者に学位の授与することを表明している。「知識・理解」とは経営学的知識・ツールを修得すること（経営学科）、観光学についての基礎知識と変化に対応する基礎能力（観光ビジネス学科）を意味する。「汎用的技能」とはビジネスプランを作成し実行できる能力（経営学科）と専門分野での問題解決能力（観光ビジネス学科）を、「態度・指向性」とは経営目標達成のために果敢に取り組む力（経営学科）と多角的視点を持てる気づき力（観光ビジネス学科）を指す（資料 1-2-16-3）。

このディプロマ・ポリシーを踏まえて学部・学科のアドミッション・ポリシーを「教育研究」の目的及び養成する人物像の中で明確に定め、それを本学のオフィシャルサイト上で公開し、そこで学部として「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、そして「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を身に付けていること求めている。

そこで入試前の学習歴、学力水準、能力については入試形態別に「東海大学入試情報 2020」や本学オフィシャルサイトの入試概要の中の試験ごとの「出願資格」において明らかにしている（資料 5-2-16-1）。また入学希望者に求める水準については同オフィシャルサイトの入試概要の「前年度結果（学部入学試験）」で公表されており、判定方法が明確である（資料 5-2-16-2）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

東海大学のオフィシャルサイトにおいて経営学部学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）として、教育研究上の目的及び養成する人材像と3つのポリシーを示している。そこでは、アドミッション・ポリシーに求める学生像を具体的に記している。（資料 51-2-16-3）

学生募集方法及び入学者選抜制度については、入学広報誌「東海大学入試情報 2020」に提示され、入学者選抜実施体制が示されている。そこでは、入学者選抜実施体制と責任の所在が明確にされており、入学説明会等の広報活動において活用されている。（資料 5-2-16-1）

前出の「東海大学入試情報 2020」は本学の入試企画委員会において検討・承認を経たものであり、入学者選抜の結果がデータで示されている（資料 5-2-16-2）。2019 年度の入試結果については、同資料に掲載され、公正な入学選抜が実施されていることが報告されている。

オープンキャンパス、大学のオフィシャルサイト、テレビ広告、主要な全国紙や地方紙等で、オープンに学生募集を行っている。入学者選抜については、出願資格、募集人数、試験日、試験科目や配点、選抜方法、選考基準などを明示し、公正性、適切性を図っている。（資料 5-2-16-1）

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

< 学士課程 >

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程 >

収容定員に対する在籍学生数比率

経営学部は 2013 年度開設の学部で、2016 年度で完成年度を迎えている。学部の収容定員は 920 名で、2019 年 11 月 1 日現在で在籍学生数は 848 名であり、在籍学生比率は 0.92 となっている（資料 5-2-16-3）。

経営学科の収容定員は 600 名で、2019 年 11 月 1 日現在での在籍学生数は 593 名であり、在籍学生比率はほぼ 0.99 となり、収容人数をほぼ充足している状況である。これは、継続して学生数の安定的な確保を目指してきた成果である。一方、観光ビジネス学科の収容定員は 320 名で、2019 年 11 月 1 日現在で在籍学生数は 255 名となっており、在籍学生比率は 0.80 で、充足率が不十分である（5-2-16-3）。しかしながら、観光ビジネス学科の在籍学生数は 4 年生が 57 名、3 年生が 61 名、2 年生が 73 名、1 年生が 71 名と近年入学の学生数は以前よりも増加しており、在籍学数の確保のための施策を講じてきた結果でもあり、学科設立当初よりも改善されてきている。今度も継続して学生数を増やしていく努力が必

要である（資料 5-2-16-4）。

在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
848	0.92	0.96

（資料 5-2-16-4 より作成）

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

2019 度は入試企画専門委員会（学部部会）を計 64 回開催して学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っている。委員会は入学センター所長を委員長として各副学長、各センター所長、教学部長、大学運営本部長、事務部長、各学部選出の委員で構成され、各大学入学者選抜試験の分析結果に基づいて、2020 年度大学入学者選抜試験の検討を行い、同実施要項の見直しを行うことによって定期的な点検・評価を行っている。経営学部では学部選出委員より或いは学科長より学科会議において委員会報告を受け、2020 年度大学入学者選抜試験の検討事項を各学科で検討を行い、学部・学科の意見を取りまとめて委員会承認に至っている（資料 5-2-16-5）。

5.2. 長所・特色

学生の受け入れ方針を定め、大学オフィシャルサイトなどで公表し、その方針に基づく学生募集や入学者選抜制度、そして入学者選抜が適切に整備され、在籍学生数は収容定員に基づいて適切に管理し、それらの制度について適宜点検・評価が行なわれ、その結果をもとに改善に向けての取り組みが行われている。その結果、2019 年度の経営学部の入学者数は 239 名で定員充足率 1.00 を満たし、かつ適切な入学者数となった（資料 5-2-16-3）。

5.3. 問題点

2019 年度は経営学部としては定員を充足し入学者数は適切であったが、観光ビジネス学科が定員数に達していなかった。昨年度が経営学科と観光ビジネス学科の両学科ともに定員を充足していたので、観光ビジネス学科の定員を満たすことが課題である。一方で全学年の在籍学生数は定員を充足していない状態が続いていることが問題点としてあげられる。そこで、今後継続的に両学科で定員を充足する努力が必要である。近年、訪日観光客数の急激な伸びなど観光業界では多くの人材を必要としているので、特に観光ビジネス学科のアピール力を高めることが肝要である。

5.4. 全体のまとめ

経営学部としての学生の受け入れ方針はオフィシャルサイト上で学部としての3つのポリシーで明言されており、教育研究上の目的及び養成する人材像についても明確に示されている。その方針に基づき、学生募集や入学者選抜制度や運営体制は適切に整備され、入学者選抜が校正に行なわれていることをオフィシャルサイト上でオープンにしている。2013年度の学部創設以来、学部の定員を充足することができていなかったが、そうした努力によって2019年度では昨年度に引き続き学部として定員を充足することができた。ただし、2019年度は観光ビジネス学科では定員を満たすことができなかった。今後は両学科で共に定員を充足するとともに、学部の特徴を出すような工夫を行い、教育の充実を図っていく。

5.5. 根拠資料

- 1-2-16-3 東海大学オフィシャルサイト 経営学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/educationpolicy.html
- 5-2-16-1 東海大学入試情報 2020
- 5-2-16-2 前年度結果（学部入学試験） https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/result_apply/result_department/
- 5-2-16-3 2019年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-16-4 経営学部在籍学生数（2019年10月1日）
- 5-2-16-5 2019年度入試企画専門委員会議事次第

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本学部の学生の受け入れ方針、学位授与方針および教育課程の編成方針については、本学オフィシャルサイト上の学部紹介の「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」（資料 1-2-17-3）に公表している。電気電子情報工学科および医療福祉工学科の学位授与方針および教育課程の編成方針についても本学オフィシャルサイト上の学科紹介の「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」（資料 1-2-17-4、1-2-17-5）において公表している。

「東海大学入試情報」（資料 5-2-17-1）において出願資格、出願学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学力選抜型の一般入試、センター試験利用入試に加えて、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試等の様々な入試制度を設けており、学部の求める学生像に合致した選抜を行っている。合否判定は、学部において判定案を作成し、学長が委員長を務める入試判定委員会において行っている。

障がいがあり合理的配慮が必要な場合は、「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-17-2）にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っており、申し出のあった学生については、合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

基盤工学部の入学定員は140名、収容定員は560名である。2019年の在籍学生数は361名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.64である。入学定員に対する入学者比率（5年間平均）は0.72である（資料 5-2-17-3）。未充足を解消するために、オープンキャンパス、高校訪問、模擬授業などの一般的な広報活動に加えて、基盤工学部が中心となって、世界一行きたい科学広場 in 熊本（資料 5-2-17-4）、マイコンカーラリー（資料 5-2-17-5）、WRO ロボットコンテスト（資料 5-2-17-6）などの高大連携イベントを開催している。

2019年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
361	0.64	0.72

（資料 5-2-17-6 より作成）

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生受け入れの適切性についての全学的な事項は、入試企画委員会、入試企画専門委員会（資料 5-2-17-7）において検討している。学部においては、入試企画専門委員または学科長が中心となり入学者選抜試験の見直しを行っている。また、広報活動については、全学的な事項は、常任広報委員会（資料 5-2-17-8）で行い、各学科の広報活動が中心となり学科教員全員が担当している。

5.2. 長所・特色

高大連携イベントを開催し、学部の魅力を伝えるよう努力している（資料 5-2-17-4、5-2-17-5）。

5.3. 問題点

本学部は、開設以来一度も定員を充足していない状況が続いている。学科別にみると、電気電子情報工学科は一度も定員を充足しておらず、医療福祉工学科は 2017 年度以降 3 年連続で入学定員を充足できていない（5-2-17-7）。

5.4. 全体のまとめ

2013 年度の学部創設以来、定員を充足することができていない。今後、定員充足を目指して、広報活動にさらに力を入れる必要がある。

5.5. 根拠資料

- 1-2-17-3 東海大学オフィシャルサイト 基盤工学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/industrial_and_welfare_engineering/educationpolicy.html
- 5-2-17-1 東海大学 入試情報
- 5-2-17-2 東海大学 入学試験要項
- 5-2-17-3 2019 年度大学基礎データ 表 2 学生
- 5-2-17-4 世界一行きたい科学広場 in 熊本
<http://www2.kuma.u-tokai.ac.jp/~kagaku-hiroba/2019/index.php?m=booth>
- 5-2-17-5 マイコンカーラリー
https://www.tokai.ac.jp/news/detail/challenge_cup_2020_8.html
- 5-2-17-6 WRO ロボットコンテスト
<https://www.tokai.ac.jp/news/detail/wrotmjapan.html>
- 5-2-17-7 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-17-8 東海大学常任広報委員会規程

2019 年度 農学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学生の受け入れ方針は、学則の教育理念（資料4-2-18-1）に基づき、教授会の議を経て設定された（資料5-2-18-1）。この概要は、大学案内（資料5-2-18-2）に明示し、詳細を入学者に求める水準等を含め大学公式サイトで公表（資料1-2-18-4）している。また、障がいのある者が受験及び修学上で配慮を要する場合、出願前の申し出を案内し（資料5-2-18-3）、申し出者と配慮内容を調整し、合意の上で出願を認めている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生募集に際して、一般的な入学広報に加え、教員が高校に出張しての模擬授業（資料5-2-18-4）およびオープンキャンパスでの模擬授業や研究紹介（資料5-2-18-5）を実施している。また学力選抜試験以外にも、指定校推薦・公募推薦入試、A0入試及び編入学試験（資料5-2-18-6）ならびに学内での転学部・転学科試験（資料5-2-18-7）を実施しており、求める学生像に合致した選抜を行っている。さらに過去の入試問題や競争倍率を公表している（資料5-2-18-8）。指定校・公募推薦入試、A0入試、編転入試については、各学科での判定の後、学部長の確認を経て、全学的な学部入試判定委員会で最終判定がなされる。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

応用植物科学科、応用動物科学科の2学科では80名、バイオサイエンス学科では70名を適切な定員と定めている（資料5-2-18-9）。2019年度の在籍者数は826人で、定員充足率は0.90であった（資料5-2-18-9）。これは2016年の熊本地震以前入学者の退学増に加え、震災以降の志願者減が起因しており、被災校舎の移転が進展していない影響が考えられる。未充足の学年では編入や転学部試験（資料5-2-18-6、5-2-18-7）を実施している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入試企画専門委員会（資料5-2-18-10）及び常任広報委員会（資料5-2-18-11）にて入試・広報の両側面から学生受け入れについて検討している。入試結果は教授会で報告・検証している（資料5-2-18-12）。

5.2. 長所・特色

今年度のオープンキャンパス（OC）参加者は一昨年度より19%増え、前年度より10%減るといった変動があった（資料5-2-18-13）。今後はOCや参加している進学説明会（資料5-2-18-14）を見直し、学生受け入れ方針が受験生により理解されるよう更に努力する。

5.3. 問題点

本学部が所在する熊本県出身者の割合が増加する傾向がある（資料5-2-18-15）。県内唯一の農学部として地域貢献を重視する方針から望ましい。2019年度は県内高校への訪問強化の効果かもしれないが、全体的な入学者の減少（資料5-2-18-12）は、特に遠方からの志願者減少が原因で、結果として地元割合が増加したとも考えられる。

5.4. 全体のまとめ

震災以降、暫定施設での教育運営が続いている。その中で学生の受け入れ方針を実現する努力を続けており、今年度からは実習教育の拠点を再構築し、実習を再開することができた（資料4-2-18-18）。これについても更に広報し、受け入れの一層の適正化を図る。

5.5. 根拠資料

- 1-2-18-4 農学部 教育上の教育研究上の目的及び養成する人材像等 <https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/educationpolicy.html>
- 4-2-18-1 東海大学 Official Web Site 学則 <https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/undergraduate/>
- 5-2-18-1 2017 年度 第 6 回 農学部教授会議事録
- 5-2-18-2 東海大学 TOKAI UNIVEERSITY GUIDE BOOK 2020（抜粋）
- 5-2-18-3 東海大学入学試験要項 2020
- 5-2-18-4 移動講座チラシ
- 5-2-18-5 2019 年度オープンキャンパス実施要綱
- 5-2-18-6 東海大学入試情報 2020
- 5-2-18-7 東海大学転学部・転学科試験要項 2020
- 5-2-18-8 東海大学オフィシャルサイト 前年度入試結果 https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/result_apply/result_department/
- 5-2-18-9 2019 年度 大学基礎データ 表 2 学生
- 5-2-18-10 入試企画専門委員会を含む規程
- 5-2-18-11 常任広報委員会規程
- 5-2-18-12 2019 年度第 8 回農学部教授会議事録
- 5-2-18-13 2019 年度熊本校舎におけるオープンキャンパス参加者数
- 5-2-18-14 2019 年度農学系進学相談会チラシ
- 5-2-18-15 入学者出身地域別割合（農学部学生）

2019 年度 国際文化学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本学部では、学部のディプロマ・ポリシーとそれを実現するためのカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「国際文化学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」をアドミッション・ポリシーとして設定しており、大学のオフィシャルサイトにおいてこれを公表している（資料 1-2-19-2）。また、このアドミッション・ポリシーは、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の3項目にわたり、入学希望者に求める水準等の判定方法を明示しており、大学のオフィシャルサイトにおいてこれを公表している（資料 1-2-19-2）。これらのことから、本学部では、評価の視点1及び2を満たしている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

全学的に「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」を定め、責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備している（資料 5-2-19-1）。当該規程の第6条は、大学において「入試企画委員会」を設置すると定め、同規定第8条には「入試企画委員会のもとに、入試企画専門委員会学部部会を置く」と定めている（資料 5-2-19-1）。入試企画委員会は、学部長が委員となっており、大学から提案された学生募集方法及び入学者選抜制度に関する案を議論することにより、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度が適切に設定されている（資料 5-2-19-1）。入試企画委員会で審議され承認されたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度は、大学の入試広報誌である「入試要項」にまとめられ、受験生をはじめとするステークホルダーに公表される（資料 5-2-19-2）。この入試要

項には、大学のアドミッション・ポリシーが記載されており、本学部では、この入試要項に記載された内容に基づき、すべての入試において基礎学力の担保を明記し、学生募集及び入学者選抜の方法を定めることにより、公平な入学者選抜を実施できている（資料 5-2-19-2）。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019 年度入試における本学部への入学者数は 255 名であり、入学定員 260 名を 5 名下回った（資料 5-2-19-3）。また、本学部の在籍学生数は 2019 年 11 月 1 日現在で 934 名であり、収容定員 1040 名に対し約 90%の充足率となっており、収容定員対し充足率が 0.2 ポイント不足している（資料 5-2-19-3）。この収容定員充足率を設置学科別にみると、地域創造学科が収容定員 440 名に対し在籍学生数が 440 名で充足率が 100.0%、国際コミュニケーション学科が収容定員 320 名に対し在籍学生数が 292 名で充足率が 91.0%であることから、これら両学科については、ほぼ収容定員を充足できている（資料 5-2-19-3）。一方、デザイン文化学科は収容定員 280 名に対し在籍学生数が 202 名で充足率 72.0%と、2019 年度入試の入学者数は 65 名と入学定員の 70 名を下回り、収容定員も大きく下回っている（資料 5-2-19-3）。このデザイン文化学科の収容定員未充足という課題に対し、2022 年度における大学全体規模での改組・改編において、当該学科を募集停止とすることで、適正な定員管理を目指す（資料 5-2-19-4）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

毎年度初めに、札幌キャンパスの札幌教学課（入試広報担当）作成の入試総括表に基づいて、入試種別ごとに志願者数と入学者数の増減を分析している（資料 5-2-19-7）。この分析結果に基づいて、全学規模で行われる学部改組・改編を実施し、学生の受け入れについて、その適切性の改善・向上を図った（資料 5-2-19-8）。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

本学部では、ディプロマ・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシーの設定を行うことにより、入学希望者に求める水準等の判定方法を明示できている。

本学では、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制が適切に整備されており、本学部としては、大学が定める学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制に基づいて入学者選抜を公正に実施している。

2019 年度に実施した 2020 年度入試において、設置学科すべての入学者数が入学定員を充足できたことは、本学部における入学者数に対する管理が改善したことを示している（資料 5-2-19-6）。一方、デザイン文化学科の収容定員に対する在籍学生数が不足していることは当該学科の在籍者数の管理が課題であることを示している。

当該課題を解決するために、2022 年度の大学全体規模での改組・改編において、デザイン文化学科の募集停止を決めた（資料 5-2-19-4）。これにより、学生の受け入れにおける適切性の改善・向上を図ったといえる。

5.5. 根拠資料

- 1-2-19-2 東海大学オフィシャルサイト 国際文化学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 5-2-19-1 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-19-2 東海大学入試要項 2020
- 5-2-19-3 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-19-4 2022 年度東海大学改組案(現行との比較)
- 5-2-19-5 2020 年度入試総括表(札幌キャンパス)
- 5-2-19-6 2020 年度東海大学札幌校舎在籍人数表(2020 年 5 月 1 日現在)

2019年度 生物学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-20-6, 1-2-20-11）において掲載し、広く周知を図っている。

各学科・専攻への入学に際して修得しておくべき知識の内容・水準、その判定方法については、「入学試験要項」（資料 5-2-20-1）及び東海大学入試情報（資料 5-2-20-2）において出願資格と併せて明示している。

障がいのある学生については、受験及び修上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」（資料 5-2-20-1, p7）中で、出願前に申し出るよう明示している。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生の受け入れ方針に基づき、一般入試、大学入試センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0入試、留学生入試など多様な学生を受け入れることができる様々な入試制度を設けている（資料 1-2-20-8, p199）。

学生募集方法、入学者選抜方法、授業料および経済的支援の周知については、「入学試験要項」（資料 5-2-20-1）、「入試情報」（資料 5-2-20-2）、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-20-3）での周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会等で情報提供に努めている。これらの説明については、入学センター職員を中心に入学アドバイザーによって行われている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、生物学部選出の

委員が各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会に出席し、生物学部の所属する学部入試について検討を行っている。また広報活動についても生物学部選出の委員が常任広報委員会に出席し、検討及び承認を行っている。

選抜方法や選考法については、「入学試験要項」（資料 5-2-20-1）において、学科試験、小論文、面接試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示し、公正かつ適切に行っている。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-20-4）及び冊子体として発行している「入試情報」（資料 5-2-20-2）に記載している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度では、生物学科264名（定員280名、定員充足率0.96）、海洋生物科学292名（定員280名、定員充足率1.03）、となり、適切に管理されている（資料 5-2-20-5）。また、学部における定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとっている。入学者数に関しても生物学科67名（入学定員70名、入学定員充足率0.96）、海洋生物科学科72名（入学定員70名、入学定員充足率1.03）、学部の入学定員充足率は0.99となっており、定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとり適切に管理されている（資料 5-2-20-6）。

（※定員充足率＝在籍人数／定員、入学定員充足率＝入学者数／入学定員）

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受け入れについては入試種別ごとの在籍人数や入試における志願者、合格者、手続者、倍率等（資料 5-2-20-6）や、また、学内外の情勢や文部科学省、大学入試センター等の施策、動向も考慮して新たな制度や募集人員の検討を毎年度行っている。

また、受け入れた学生の学力等について、入試種別ごとに各種の指標を用いて評価する

など（例、5-2-20-7）、除籍退学の動向などを追跡して一定の点検は行っている。これらの側面では現時点で、特定の入試種別で著しく退学率が高い等、大きく見直しの必要な事項は出てきていない。

5.2. 長所・特色

2016年度の報告では、生物学部では、付属高校からの推薦入学者が大学全体で定めた目標より少ない傾向にあった。2016年度では学部全体で7名であったが、2018年度では28名となり、2019年度では19名であった（資料 5-2-20-6）。本学が目指す一貫教育に向けて、各付属高校での学部学科説明会などで生徒だけでなく、保護者や高校教員などともコミュニケーションをはかり、学部・学科の内容（資料 1-2-20-9）、アドミッション・ポリシーの一層の周知を計るなどの成果が現れた。夏に行っている付属体験授業についても一定の成果が出てきている（資料 5-2-20-8）。

5.3. 問題点

昨年度の報告で2016年度1733名であった志願者数が、2018年度は1322名と減少し、その理由の一つとして全国私立大学の農・水産系学部の志願者数の減少があることを述べたが、2019年度は1384名となっている（資料 5-2-20-6）。2019年度の私立大学一般入試の農・水産系・獣医系統志願者数は前年比の97%となっており更に減少傾向が見られおり（資料 5-2-20-9）、定員確保のための検討を続ける必要がある。

5.4. 全体のまとめ

学生募集方法、入学者選抜方法、学部・学科の内容、アドミッション・ポリシーなど本学オフィシャルサイトを中心に、情報発信はうまくいっている。継続して発信し、高校生や保護者への理解を促していく必要はある。入学定員については、定員充足率が1.03であり、適切に管理できている（資料 5-2-20-5）。付属高校を含めた推薦系の入試は好調ではあるが、志願者数の減少はみられるので、危機感を持って定員確保のための、広報活動を行っていく必要がある。

5.5. 根拠資料

1-2-20-6 東海大学オフィシャルサイト（3つのポリシー）

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>

1-2-20-8 東海大学 TOKAI UNIVEERSITY GUIDE BOOK 2020（大学案内）

1-2-20-9 東海大学 学部・学科案内（生物学部案内）

1-2-20-11 生物学部オフィシャルサイト（3つのポリシー）

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/educationpolicy.html>

5-2-20-1 2020年度東海大学入学試験要項（医学部医学科以外）

5-2-20-2 東海大学入試情報

5-2-20-3 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/each_department/

5-2-20-4 東海大学オフィシャルサイト（前年度入試結果学部入学試験）

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/result_apply/result_department/

5-2-20-5 2019年度 大学基礎データ 表2 学生（生物学部）

5-2-20-6 2019年度 大学基礎データ 表3 学部・学科における志願者・合格者・入学者数の推移（生物学部）

5-2-20-7 2019・2020 入学者分析（高校ランク別）

5-2-20-8 2019年度附属高校体験授業

5-2-20-8 旺文社教育情報センター（2019年私立大学志願者動向分析）

2019 年度 総合理工学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

アドミッション・ポリシーを適切に定め、本学オフィシャルサイトで公表している（資料 5-3-1-1）。そこには【本学の「建学の精神」と、総合理工学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し】とあり、続いて、【自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。】と要求する能力を示している。これらは、ディプロマ・ポリシーに示す知識・技能・能力をふまえて示している。入学希望者に求める力（知識・技能・能力）もアドミッション・ポリシーで公表している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

一般、推薦、社会人特別、国際方式等、様々な入試制度を担当部署である入学センターや教学部と共に適切に実施している。最終判定は、学長を責任者とする入試判定委員会で行い、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。募集方法、選抜方法、授業料と経済支援についてオフィシャルサイトや大学院入試要項により一般に周知されている（資料 5-3-1-2）。

出願者には修士課程修了または同等の能力を求め、入学試験では入学前後の研究及び研究計画に関する書面提出及びプレゼンテーションを課し、基礎学力、研究立案・遂行能力、英語力を評価している。修士の学位を有しない者、修士課程在籍中の推薦入試受験希望者に対し出願資格審査を行う。留学生の入学試験は英語で実施している。このように入学希望者に対する合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している（資料 5-3-1-2）。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度在籍者数は53名である（資料5-3-1-3）。入学定員は35名、収容定員は105名である。収容定員に対する在籍学生数比率は51%であり、収容定員の半数ほどであり、適正に管理できているとはいえない（資料5-3-1-4）。本研究科の問題は入学者数が少ない事であるため、研究科の存在を学部生や修士課程の大学院生に周知すべく、ポスターおよび研究紹介冊子を作成し、掲示、配布した（資料5-3-1-5、5-3-1-6）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

受け入れの適切性について、5.1.2に示した入学選抜を研究科長、専攻長、教務委員2名、FD委員の5名で全受験者に対して実施している。毎試験後、このメンバーで試験の適切性を点検・評価を行っている。

5.2. 長所・特色

アドミッション・ポリシーを定め、公開している。入学者選抜制度は適切で公平である。社会人、留学生などを積極的に受け入れている。

5.3. 問題点

収容定員に対する在籍学生比率は、51%であり収容定員を満たしていない。

5.4. 全体のまとめ

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定・公表している。入学者選抜制度は、公平適切であるが、在籍学生数の向上が課題である。

5.5. 根拠資料

5-3-1-1 東海大学オフィシャルサイト：総合理工学研究科 総合理工学専攻（博士課程）

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/science_and_technology/

5-3-1-2 2019 年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項

2019 年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項

2020 年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験（第1期・第2期）
要項

2020 年度東海大学大学院春学期推薦入学試験（第1期・第2期）要項

5-3-1-3 2019 年度 大学基礎データ 表6 在籍学生数内訳、留年者数、退学者数

5-3-1-4 2019 年度東海大学年報（表6）在籍学生数内訳、留年者数、退学者数

5-3-1-5 総合理工学研究科ポスター

5-3-1-6 総合理工学研究科_研究紹介冊子_抜粋

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

地球環境科学研究科の学生の受け入れ方針は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシーを設定し、大学オフィシャルサイト等にて公表されている（資料1-3-2-2、1-3-2-3）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

東海大学の修士課程から進学を希望する場合は推薦での入学試験となる。研究科長、専攻長、指導教員予定教員に対して、事前に修士課程の研究発表と博士課程進学後の計画についてプレゼンテーションを行い、その後一般的な口頭試問を行っている。

また、外部からの進学の場合は一般入試を実施している。研究科長、専攻長と予定している指導教員により、修士論文の内容と博士課程進学後の計画に関してヒヤリングを実施し、その後一般的口頭試問を行っている。専門的知識も重要となるが、最終的な学位論文公聴会で、一般の人にもわかるような説明をする必要があるためである。

進学者の確保は研究科にとって大きな課題であり、修士課程におけるガイダンスでも、博士課程の紹介を機会あるごとに実施している。さらに進学希望者には、各種奨学金の存在やその獲得実績、TAの制度についても丁寧に説明を実施している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、

運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員は10名であるが、2019年度入試では、春学期1名秋学期2名の合計3名の入学者があった。

収容定員は30名、在籍学生数は6名であり収容定員充足率は0.2となっている（資料5-3-2-1）。充足率を向上させるためには、まず博士課程前期研究指導教員を増やすといった大学院そのものへの進学者を増やす事が重要と考えている。そのためには今後、博士課程前期研究指導教員、博士課程後期研究指導教員になる事のメリットを研究科でも学部でも啓発していく事がひいては博士課程の充足率の向上につながると考えている。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入学定員を確保することが、一つの目標ではあるが、入学者の学力レベルの判断も重要となって来る。中間発表や博士論文公聴会の際には博士担当教員全員によるルーブリックを用いた判定会議を実施している（資料4-3-2-7）。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

入学定員は10名であるが、2018年度入学者は2名、2019年度入学者は3名であった。入学定員の確保は大きな問題である。

5.4. 全体のまとめ

修士課程の上部に位置していないため、十分な広報活動ができていない。今後は3研究科を統一する方向で議論している（資料5-3-2-2）。入学定員を確保するため、授業料の検討が必要である。公立大学の大学院が入り易くなっているため、授業料で対抗できないのが現状である。修士課程での進学意識と研究意欲の確保が重要と考える。また、外部の大学からの進学者を確保することも重要と考える。

5.5. 根拠資料

- 1-3-2-2 東海大学オフィシャルサイト 地球環境科学研究科 https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/earth_and_environmental_s/
- 1-3-2-3 東海大学大学院学則 別表1
- 4-3-2-7 TGD 様式 2-2 公聴会評価ルーブリック
- 5-3-2-1 2019年度 IR室 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-2-2 三研究科合同再編要望書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本研究科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、『本学の「建学の精神」と、以下に示す本研究科の教育理念・目標を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れる。本研究科の教育理念・目標：「国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持ち、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる実践力と広い見識を持つ生物科学研究者・技術者」の育成』と定められており、この方針は、本学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（資料1-3-3-6）や「東海大学大学院ガイド」（資料4-3-3-3）において掲載し、明示している。また「東海大学オフィシャルサイト大学院入試情報」（資料5-3-3-1）においても出願資格を設定し、本研究科の期待する知識の内容及び水準について明示し、公表している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

入学試験要項、大学院ガイド等に記載されている方針に基づき、大学院の入試試験における出願手続き方法、試験上の注意、合格発表、入学手続き方法について記載し学生募集を行っている。特に、出願手続きについては、書類の種別、提出期限について詳細に記載している（資料5-3-3-1）。これにより、受入れ対象となる受験者を書類審査し、基準に達している場合は、プレゼンテーションを含めた学力選抜を行い、授業料と経済的支援の周知と確認を行った上で適正に入学者選抜を行っている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

本研究科では定員 10 名である（資料 5-3-3-2 p.6）が、2019 年度大学基礎データ新表 3（資料 5-3-3-3）のとおり、2017 年度 4 名、2018 年度 1 名、2019 年度 0 名の入学生があり、未充足な現状にある（資料 5-3-3-2 p.10）。これは研究分野の有無により出願状況が変動するためと考えられる。修士課程入学者に博士課程の状況を説明しており、公聴会の学部・修士学生の参加を促進している。また入試パンフレットの改善（入学課に協力）を行っている。

2019 年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比 率（5 年間平均）
6	0.20	0.16

（資料 5-3-3-3）

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入学者選抜の結果は、年 2 回の入試時期に開催される教授会で報告され、学生募集などについて定期的に検証を行っている。また、2018 年度より進学者を増加させるべく、専攻分野、学費、奨学制度、広報戦略などを大学院研究科長運営研修会で議論し、2019 年度も継続している。

5.2. 長所・特色

総合的な生命科学教育研究を、複数のキャンパスにおいて実施しており、それぞれのキャンパスで学生を受け入れる特色をもつ。高い専門研究力を有する教員と先端的な研究施設を効果的に糾合・活用し、生命現象の発現・調節にかかわる機能の解明から、生物資源の生産・開発と高度利用までを目指した研究・教育を行う。このため、生命現象の基礎研究とその応用を追究する「生命科学コース」と基礎研究に根ざした生物資源の高度利用をめざす「生物資源科学コース」を設置して、生物分野における多様な学生の受け入れに対

応した体制を整えている（資料 4-3-3-3）

5.3. 問題点

本研究科の学生の受け入れについては、2017 年度認証評価結果（資料 5-3-3-4 p.61）の努力課題となっている。博士課程後期への進学は明確な志望動機とともに資質も重要な要素になっている。このため、学生確保のために高い専門的思考と研究技術を教育できる魅力ある環境構築を行い、改善に向けた取り組みとして、総合理工学研究科や地球環境科学研究科との専攻分野の見直しについて、一昨年度より検討中である。

また、本研究科は博士課程後期の独立した研究科であるため、修士課程、あるいは博士課程前期の研究科とのつながりが不明確であるため、広報についても推進すべく、大学院研究科長運営研修会を通じて改善努力のための積極的な議論を重ねている。学生の受け入れ方針などは明確に示されているので、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-3-1）を通して積極的に学内外に拡大する。すでに、本学オフィシャルサイトの英字サイト（資料 4-3-3-9、5-3-3-5）を作成しているが、さらなるグローバル対応として、国外からの留学生向けの大学院 Web サイトを充実させていく予定である。

5.4. 全体のまとめ

総合的な生命科学教育研究を、高い専門研究力を有する教員と先端的な研究施設を効果的に糾合・活用すべく、2 コース制に分けて生物分野における多様な学生の受け入れを推し進めている。本研究科では定員 10 名であるが、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.16 と未充足である。このため、入学者選抜の結果は、年 2 回の入試時期に開催される教授会で報告され、学生募集などについて定期的に検証を行っている。また、2017 年度より進学者を増加させるべく、専攻分野、学費、奨学制度、広報戦略などを大学院研究科長運営研修会で議論し、2019 年度も引き続きこれら対策を検討している。

5.5. 根拠資料

1-3-3-6 東海大学オフィシャルサイト 生物科学研究科 3 つのポリシー

<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/biosciences>

4-3-3-3 東海大学大学院ガイド

https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-0-23&FL=0

4-3-3-9 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト

<https://www.u-tokai.ac.jp/english/>

5-3-3-1 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 大学院入学試験（生物科学研究科）

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/d03.html

5-3-3-2 生物科学研究科教授会（2019 年度 第 1 回）

5-3-3-3 2019 年度大学基礎データ 表 2 学生

5-3-3-4 2017 年度認証評価結果

<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/self-assessment/activity/index/pdf/results.pdf>

5-3-3-5 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト Types of Admission

https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/types_of_admission.html

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

文学研究科では、大学の基本的方針に則り、「時代の変化に合わせ、専門分野における高度な知識とそれを活用する能力を修得するとともに、近年の社会の多様な価値意識、人文・社会科学の複合的動向をふまえ、より学際的な視点から地球規模でのグローバル社会に対応できる人材」の養成を目指した3つのポリシーを掲げ、その中でアドミッション・ポリシーを定めて公表している。具体的には、「伝統的な人文学研究の学問領域を超える研究領域」をもち、「確固たる基礎力と柔軟な思考をもって国際的にも活躍」し、「高度な科学技術社会において人間性や倫理観を尊重しながらそれに批判的に立ち向かう精神」を備え、その課程に応じた知識・技能・能力を修得した者に修士あるいは博士の学位を授与するといったディプロマ・ポリシーを明示し、その上でそれぞれの課程で修得すべき知識・技能・能力のそれぞれに対してのカリキュラム・ポリシーを定めている（資料5-3-4-1）。

こうした教育研究上の目的及び養成する人材像に対し、以下の2点をアドミッション・ポリシーとして定め公表している。第一は上の要件を十分に理解してその修得に努め、かつ、それぞれの課程に応じた学位論文執筆に向かう意欲のある者であり、第二に具体的な知識・技能・能力として、専門分野の情報・知識を得るために必要な日本語および英語（他の外国語）の語学力およびコミュニケーション力、人文学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力を求めている（資料5-3-4-1、1-3-4-5）。

実際の入学試験は、一般入学試験、推薦入学試験、社会人特別入学試験があるが、そのいずれにしても入学試験の内容は入学試験要項に明記されている。一般入学試験に関しては基本的には語学試験、専門試験および口頭試問（面接）が課される（博士課程後期は英語と口頭試問）が、推薦入学試験では事前の面接等において、社会人特別入学試験では口述試験において、語学と専門試験に準じた判断がなされる（資料5-3-4-2）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

東海大学大学院の入学試験は研究科単位ではなく、全学的な入試制度のもとで運営されている。全学的な入試企画委員会（大学院部会）を設置し、文学研究科長が研究科代表の委員を務めている。また、この委員会の下に各研究科代表の委員から構成される入試企画専門委員会（大学院部会）を置き、入学試験に対する募集方法、選抜制度について検討している（資料5-3-4-3）。具体的には各研究科の意見を研究科代表委員が入試企画専門委員会において提示し、委員会での検討結果を研究科に持ち帰って再検討することを繰り返し、最終的には文学研究科の意見を大学と調整した形で次年度の全学的入試の枠組みが決定される。

なお、各入学試験の判定委員会も全学で開催され、学長（大学院運営委員長）の下で研究科長が出席するなかで判定が行われている。入学希望者の募集方法、選抜制度、授業料と経済的支援の周知等は、大学院運営委員会にて決定される（資料5-3-4-3）。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

文学研究科においては、2019年度入学者数／入学者定員に対する入学者数比率は（以下（ ）は定員）、文学研究科全体では17名（62名）／超過率0.27である。博士課程前期（修士課程）では、全体で14名（44名）／0.32であり、各専攻では、文明研究2名（8名）／超過率0.25、史学0名（8名）／超過率0、日本文学4名（8名）／超過率0.50、英文学0名（4名）／超過率0、コミュニケーション学4名（8名）／超過率0.50、観光学4名（8名）／超過率0.50である。博士課程後期では、全体で3名（18名）／0.17であり、各専攻では、文明研究1名（4名）／超過率0.25、史学0名（4名）／超過率0、日本文学2名（4名）／超過率0.50、英文学0名（2名）／超過率0、コミュニケーション学0名（4名）／超過率0である（資料5-3-4-4）。

また、2019年度在籍学生数／収容定員に対する在籍学生数比率は（以下（ ）は収容定員数）、文学研究科全体では44名（142名）／超過率0.31である。博士課程前期（修士課程）では、全体で32名（88名）／0.36であり、各専攻では、文明研究4名（16名）／超過率0.25、史学4名（16名）／超過率0.25、日本文学9名（16名）／超過率0.57、英文

学0名（8名）／超過率0、コミュニケーション学10名（16名）／超過率0.63、観光学5名（16名）／超過率0.31である。博士課程後期では、全体では12名（54名）／超過率0.22であり、各専攻では、文明研究7名（12名）／超過率0.58、史学0名（12名）／超過率0、日本文学4名（12名）／超過率0.33、英文学0（6名）／超過率0.0、コミュニケーション学1名（12名）／超過率0.08である（資料 5-3-4-4）。

以上の数値から、入学者数、在籍者数ともに50%を割り込んでいる状況である。このような状況に対する取り組みについては、5.1.4.を参照。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

文学研究科では担当教員がすべて学部所属教員であり、学生募集という点では学部依存している状況にある。したがって、学部からの進学者確保することを目的に、2019年に初めて学部生を対象とする文学研究科独自の進学相談会を開催し、大学院進学の意味や将来的なメリットに関して学部生への周知をはかった。同時に、就職対策などを含めた対策を講じる予定である。

5.2. 長所・特色

文学研究科の学生受け入れに関しては、入学試験は厳正かつ公正に実施がなされている。また、少人数教育の徹底がはかられている。

5.3. 問題点

文科系の大学院進学希望者が圧倒的に少ないことは大きな問題点である。文学研究科では、就職対策を含めて大学院進学の特長の周知徹底をはかる必要がある。

5.4. 全体のまとめ

文学研究科では、3つのポリシーを定め、適正な入学試験を実施しており、教育そのものは充実している。ただし、入学者および在籍者が少なく、今後は抜本的な対策が求められる。

5.5. 根拠資料

1-3-4-5 2019年度 東海大学大学院ガイド

5-3-4-1 東海大学オフィシャルサイト 文学研究科 教育研究上の目的及び養成する人材像3つのポリシー <https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/letters/>

5-3-4-2 大学院入学試験 各入学試験要項

5-3-4-3 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程

5-3-44 2019年度 大学基礎データ 表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

政治学研究科では、「時代の変化に合わせ、グローバル化とローカル化、多様性と統一性、分権化と集権化の衝突の中で、わが国及び世界の経済的、社会的、環境的な持続可能性を実現する新しい政治理論とその応用を探究すること」を教育研究上の目的としたうえで、アドミッション・ポリシーを「本学の「建学の精神」と、政治学研究科（政治学専攻）の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。」と明確にしている（資料5-3-5-1）。

これに基づき、求める学生像を「政治学研究科（政治学専攻）で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、入学者にもとめる力（知識・技能・能力）を「専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者」および「政治学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者」としている（資料5-3-5-1）。こうした力を各種入試で判定している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生の受入方針に基づく各種入試については、大学全体の入試企画委員会での方針設定に沿って適切に行われている。政治学研究科の入試には一般入学試験、社会人特別入学試験、推薦入学試験があり、年に2回の入学試験がある。各入学試験の出願資格、試験科目、選抜方法、学費・諸会費などは、各種「入学試験要項」（資料5-3-5-2～5）で周知している。いずれの入試においても、大学院教授会の判定を経て、大学院全体の判定会議で公正に合

否を決定している。

なお、障がいがある学生の受け入れについては、大学全体の方針である「東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて」（資料 5-3-5-6）に沿って対応している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点 1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

政治学研究科では博士課程前期の入学定員を 10 名、収容定員を 20 名、博士課程後期の入学定員を 5 名、収容定員を 15 名に設定している（資料 5-3-5-7）。学生が学位を取得するために水準の高い研究指導をきめ細かく行わなければならないことを考慮すれば、入学定員数および収容定員数は適切である。

収容定員充足率は、2019 年度現在、博士課程前期 0.00、博士課程後期 0.13 であり、たいへん低い（資料 5-3-5-8）。このような状況に対しては、以前より、大学院志望の動機をもつ可能性のある学部生への積極的な対応を学部専任教員に要請し、また学部生向けの進学説明会（資料 5-3-5-9）を行い、広報活動につとめている。また、2018 年度より、秋学期の在学生ガイダンスにおいて配付資料に大学院の説明（資料 5-3-5-10）を盛り込み、直接学部生に大学院の概要を説明している。また、2019 年度には研究科長が在学生ガイダンスに出席して説明を行った。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点 1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点 2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生受け入れの適切性については、大学院入試における合否判定の結果を教授会で報告する際に、問題点を共有、検証した上で、5.1.3 で記載したような具体的対応を実施している。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

在籍学生が少ないことが問題であると認識している。

5.4. 全体のまとめ

政治学研究科の定員の設定、各種入試についての問題はないと認識しているが、在籍学生数の低迷が続いていることは改善を要する。2019年度の研究科教授会では、対応策について検討し、大学院説明会だけでなく、2019年度秋学期の在学生ガイダンスに研究科長自ら説明に出向いた（その結果、2020年度春学期には博士課程前期に1名の入学者があった）。

5.5. 根拠資料

- 5-3-5-1 東海大学オフィシャルサイト「政治学研究科教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」https://www.utokai.ac.jp/academics/graduate/political_science/
- 5-3-5-2 2019年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-5-3 2019年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-3-5-4 2019年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-5-5 2019年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- 5-3-5-6 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
- 5-3-5-7 東海大学大学院学則 別表2
- 5-3-5-8 2019年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-5-9 大学院説明会ポスター
- 5-3-5-10 2019年度秋学期政治学科在学生ガイダンス資料

2019年度 経済学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本研究科では学位授与方針、教育課程の編成方針を踏まえ、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をつぎのように定めている。

『本学の「建学の精神」と、経済学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。

求める学生像

経済学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

入学者にもとめる力（知識・技能・能力）

経済学研究科

専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者

経済学分野又は経営学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者』

この方針は、本学オフィシャルサイト経済学研究科 応用経済学専攻（博士課程〈前期・後期〉（資料 1-3-6-1）において掲載し、明示している。

また各種の「大学院入学試験要項」（資料 5-3-6-1）や「東海大学オフィシャルサイト 入試情報、入試概要、大学院入学試験」（資料 5-3-6-2）において出願資格を設定し、本研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施して

いるか。

本研究科では、大学全体が定めた学生の受入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、社会人特別入試、推薦入試などの入試制度を設けている。学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」（資料 5-3-6-1）、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-6-2）での周知を行っている。

また、大学全体として、入試に関する検討を行う入試企画専門委員会に対して本研究科からも委員を選出し、入試についての検討に参加している。委員会で検討課題が出た場合には研究科に持ち帰り、教授会などで議論し、その結果を委員会に報告している。以上のような入試制度に関する周知と入試制度の策定・実施・検証・改善のプロセスをとっており、学生募集活動は適切に行われている。

また、「入学試験要項」（資料 5-3-6-1）には本研究科の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載されており、公正な入学者選抜の実施に努めている。

入学者選抜の面接試験では研究科長、研究科主任、常任教務委員ならびに指導を希望されている教員を含めた最低 5 名が面接員として審査し評価を行うことで、公正を保っている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点 1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。
--

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

経済学研究科では博士課程前期の入学定員を 10 名、博士課程後期の入学定員を 5 名に設定している（資料 5-3-6-3 学則）。大学院教育での大きな目標が学位申請論文の作成にあり、その作成のための研究指導を教員がきめ細かく行っていく必要があることを鑑みると、入学定員数は適切である。

学生の受け入れに関しては、受験生の希望する専門分野との兼ね合いもあり、研究指導教員単位に委ねられるため、研究科単位として出願希望の学生がどの程度、初期段階（問い合わせレベル）で来ているのかが把握しきれていない。また、実際に出願がなされ、入学する学生数については、この数年は各セメスターとも 1 名程度であり、収容定員を超過することはないが、その反対に全く入学者がいないセメスターも存在するので、適正に管理できているとは言い難い（資料 5-3-6-4）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

大学院入試の可否判定結果を教授会で報告しており、必要な場合はその場で入試の実施に関する問題点の確認を行っており、その際に検証がなされている（資料 5-3-6-5）。

5.2. 長所・特色

少人数の学生を手厚く指導する体制が整っている。

5.3. 問題点

定員については未充足の状況が続いているため、改善策を検討する必要がある。

出願希望の学生は、まず指導を希望する教員に個別にメールないし電話で問い合わせて来る場合がほとんどである。問い合わせがあれば、そのつど当該教員が事前に面談をし、今後について検討しているが、そうしたアプローチ情報の共有が教員間で十分にはできていない。この点を定期的に報告し、希望人数やアプローチの多い時期、学生の質などの傾向を組織的に把握する必要がある。

5.4. 全体のまとめ

定員を充足していない状況が続いているため、一般学生の進学をいかに増やすか、また、留学生や特に社会人の入学をいかに促すかについては改善の余地が大きく残っている。本研究科の魅力をいかにアピールが必要となる。

5.5. 根拠資料

1-3-6-1 本学オフィシャルサイト経済学研究科 応用経済学専攻博士課程（＜前期・後期＞）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/economics/>

5-3-6-1 大学院入学試験要項

5-3-6-2 東海大学オフィシャルサイト 入試情報、入試概要、大学院入学試験
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/

5-3-6-3 東海大学大学院学則
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/>

5-3-6-4 2019年度 大学基礎データ 表2 学生

5-3-6-5 2018年度第10回経済学研究科教授会議事録

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

法学研究科は、オフィシャル・ウェブサイトにおいて、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシーを明示している。その内容は「本学の『建学の精神』と、法学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れる」としたうえで、次のように「求める学生像」および「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を示している。

博士課程前期については、「求める学生像」を「法学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を「専門分野の情報・知識を得るために必要な英語・ドイツ語・フランス語いずれかの語学力を有し」かつ「法律学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者」としている。

博士課程後期については、「求める学生像」を「法学研究科で定めている学位授与のために求められている法学研究者としての能力と深い学識を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を「専門分野の情報・知識を得るために必要な英語・ドイツ語・フランス語いずれかにつき、研究者に求められる十分な語学力を有し」かつ「法律学分野の専門的な研究をすすめるために必要な博士課程前期終了レベルの十分な基礎学力がある者」としている（資料 4-3-7-1）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生募集の内容や選抜手続等は入学試験要項に示されており（資料 5-3-7-1～4）、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に募集と選抜を行っている。入学者選抜においては、一般入試では、研究科構成員のすべてが面接に加わることができ、また、研究科教授会では、その構成員が試験問題と答案について閲覧することができ、慎重な議を経ることにより、恣意的な判定を排除し、受け入れ方針に基づく学生募集、入学選抜を公正かつ適切に行っている。推薦入試では、推薦教員、予定指導教員の他、研究科長、専攻長の面接が可能であり、選抜の適切性を確保している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

東海大学大学院学則別表2に設定されている定員（資料 5-3-7-5）を超える入学は行われていない（資料 5-3-7-6）。他方、2019年度においては、博士課程前期・後期ともに在籍学生はなく、定員の充足状況に問題を残している（資料 5-3-7-7）。定員充足をめざし、とくに博士課程前期について、推薦入試の説明とあわせて説明会を推薦の主体となる法学部法律学科と連携して行い（資料 5-3-7-8）、また、法学研究科で学ぶことに関して紹介するポスターを作成、掲示している（資料 5-3-7-9）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

法学研究科は、定期的な検証を行うことを目的とした特別の委員会等は設置していないが、研究科教授会に法学部教員も参加して、自己点検評価に基づく学生の受け入れ策を含む活性化策についての検討を実施している（資料 5-3-7-10）。また学内の入試企画専門委員会（大学院部会）の委員に法学研究科から1名選出され、学内全体の入試企画の検討に加わり検証を行っている（資料 5-3-7-11）。

5.2. 長所・特色

法学研究科は、語学を英語のみならず、ドイツ語、フランス語にも広げ、留学生を含む幅広い学生の受け入れ体制を整え、さらには、教授会においても、法学部教員と連携して学生の受け入れを促進するための検討を進めている。

5.3. 問題点

制度と活動からは基準をおおむね充足していると判断できるが、定員充足に大きな問題を残している。優秀な学生は、法科大学院へ進学し、税理士を目指す優秀な学生は、会計学を学ぶための大学院に進学する。公務員についても、大学院修了者の職歴換算が十分でない自治体があるなど、進学者が確保できずにいる。優秀な学生が法学研究科を目指すのであれば、現状では、研究者を目指す者となり、その数は相当に限られている。

5.4. 全体のまとめ

法学研究科の理念・目的は適切に設定され、周知・公表されている。理念、目的の達成には、内部進学者向けに、入学金免除や奨学金制度の周知徹底、さらには、現役の公務員や企業法務に携わる社会人、あるいは、留学生を受け入れるための体制整備が必要である。

5.5. 根拠資料

4-3-7-1 東海大学大学院法学研究科法律学専攻 3 つのポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/law/>

5-3-7-1 2019 年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入試試験要項

5-3-7-2 2019 年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項

5-3-7-3 2019 年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項

5-3-7-4 2019 年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項

5-3-7-5 東海大学大学院学則 別表 2

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/index/pdf/gakusokubetu02.pdf>

5-3-7-6 2019 年度 大学基礎データ表 3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移

5-3-7-7 2019 年度 大学基礎データ 表 6 在籍学生数内訳、留年者数、退学者数

5-3-7-8 大学院法学研究科進学に関する説明会のお知らせ

5-3-7-9 法学研究科紹介ポスター

5-3-7-10 2019 年度 第 2 回、第 4 回、第 5 回、第 6 回、法学研究科教授会議事録

5-3-7-11 2019 年度学部選任学内諸委員 学部専任学部内諸委員

2019 年度 人間環境学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学生の受け入れ方針は、大学全体の方針の下に、「本学の「建学の精神」と、本研究科の教育理念・目標である「人文・社会・自然科学の枠を超えた学際的な視野で人間の生き方を再考し、豊かさの本質を問い直すことができ、従来の固定観念にとらわれることなく人間環境を広い視野で考え、共生社会構築に向けて行動できる人材の育成を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます」として、研究科のアドミッション・ポリシーで明示し、「大学オフィシャルサイト」（資料 5-3-8-1）で公開している。

なお、求める学生像および入学希望者に求める水準等の判定方法については、「大学オフィシャルサイト」（資料 5-3-8-1）および「大学院入学試験要項」（資料 5-3-8-2）に明示・公開している。また、障がいのある学生の受け入れ方針については大学全体の取組みの基本方針（資料 5-3-8-3）に従っている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生募集方法は、「大学オフィシャルサイト」（資料 5-3-8-4）及び「大学院入学試験要項」（資料 5-3-8-2）などにより明示・公開されている。

入学者の選抜基準・方法については、本研究科の原案を元に、学内の入試企画委員会及び大学院運営委員会で決定され、「大学院入学試験要項」（資料 5-3-8-2）に記載されている。その選抜基準に従った可否の判定については、各研究科の判定案を大学院入試判定委員会で検討して最終的な可否を決定するなど、複数の可否判定の検討が行われており、入学者選抜における透明性を確保するとともに、公正に実施されている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.55（在籍学生数11名、収容定員20名）（資料5-3-8-5）で、収容定員を確保できていない。この未充足の状況を改善するために、教養学部人間環境学科などの学生に学内メールで進学の案内を配信するとともに、新入生および在学生ガンダンスで大学院の案内をしている。また、進学に興味を示している学生については、研究科長、専攻長、教務委員及び各学部指導教員がその都度相談に応じている。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生募集及び入学者選抜については、学内の関係部署において継続した検証が行われている。研究科においても入学試験などの機会に入試判定資料などを基にその都度検討している。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

収容定員を確保する必要がある。

5.4. 全体のまとめ

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し公表している。また、その受け入れ方針に従った学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。それらの適切性については定期的に点検・評価するとともに、その改善・向上に向けた取り組みを行なっている。

しかしながら収容定員を満たしていないことから、収容定員の確保に向けて教授会を構

成する教員をはじめ、非常勤教員や関連部署などとも意見交換を行い、具体的な方策を検討するとともに、学内メールや新入生・在学生ガイダンスでのアナウンスを行なっている（資料 5-3-8-6）。また、学生の受け入れの適切性にかかる点検・評価について、研究科として入学試験などの際に検討している。

5.5. 根拠資料

- 5-3-8-1 東海大学オフィシャルサイト人間環境学研究科アドミッション・ポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/human_environmental_studi/
- 5-3-8-2 東海大学大学院入学試験要項
<https://www.umcnavi.jp/tokai/index.asp>
- 5-3-8-3 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>
- 5-3-8-4 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 大学院入学試験 https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/
- 5-3-8-5 2019 年度 大学基礎データ 表 2 学生
- 5-3-8-6 2019 年度第 5 回大学院人間環境学研究科教授会議事録

2019年度 芸術学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

芸術学研究科の受け入れ方針は、大学全体の方針の下に定めた教育研究上の目的及び養成する人材像、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、アドミッション・ポリシーとして定めている。研究科全体のアドミッション・ポリシーは、『本学の「建学の精神」と、芸術学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。』との考えの下、『芸術学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材』を「求める学生像」として示している。また「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」として、

- 1) 専門分野の情報・知識を得るために必要な日本語、外国語（英語、ドイツ語、フランス語のいずれか）の語学力を有している者。
- 2) 芸術分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者。
- 3) 芸術の分野で、学問と実技・実践の両面からの学びに意欲を有する者。
- 4) 芸術における高度な専門性を支柱としつつ、横断的な思考ができる者。

を挙げ、更に音響芸術専攻では、『芸術学研究科がもとめる力に加え、音楽学と演奏のいずれかにおいて専門的な学修をするのに十分な基礎力があり、かつ音楽学と演奏の両面からの学びに意欲を有する者』。造型芸術専攻では『芸術学研究科がもとめる力に加え、美術とデザインのいずれかにおいて専門的な学修をするのに十分な基礎力があり、かつ美術またはデザインに関する明確な研究目的と学びへの意欲を有する者。』を定めている。それらは、本学オフィシャルサイト「芸術学研究科」のトップページ（資料 1-3-9-2）に明示・公開している。そのほか「東海大学大学院ガイド」（資料 5-3-9-1 pp. 20-21）にも記載している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

入学者の選抜基準については、学内に設置される「入試企画委員会」「入試企画専門委員会」などにより各研究科の意見を取り入れて決定され、「東海大学入学試験要項」（資料 5-3-9-2）に記載されている。

入学者選抜に係わる出願資格、出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続期間等に関しては、大学全体及び芸術学研究科、両専攻がそれぞれ定めるアドミッション・ポリシーに基づき、「東海大学大学院入学試験要項」（資料 5-3-9-2）や「東海大学オフィシャルサイト（入試情報）」（資料 5-3-9-3）に記載し周知している。

入学者選抜の体制としては、研究科の専攻毎に入試委員ならびに出題委員を置いている。各出題委員が作問した専門試験問題については、各専攻会議での承認の後、研究科長の確認を経て入学センターに提出されている。また外国語試験の作問についても、両専攻に英・独・仏語の出題委員を置き、両専攻委員間で調整の後、研究科長の確認を経て入学センターに提出されている。

それぞれの選抜基準に従った合否判定案は、研究科長、専攻主任、指導教員予定者などの合議を経た後、大学院運営委員会委員長の下に置かれた「大学院入試判定委員会」にて全学レベルで検討するなど、複数段階の合否判定の検討が行われており、入学者選抜における公正性・透明性を確保するための適切な措置を講じている。（「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」）（資料 5-3-9-4）。

前年度の入試結果については、「東海大学オフィシャルサイト（入試情報）」（資料 5-3-9-3）及び「大学院ガイド」（資料 5-3-9-1）に掲出され、透明性を担保している。

身体機能等に障がいがあり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者については、入学センター入学課で事前の問い合わせを受け付け、必要とする配慮の内容について検討し、特別配慮内容（試験時間延長、支援者の介助など）を回答する旨、「東海大学大学院入学試験要項」（資料 5-3-9-2）に記載している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

定員と充足率については「2019年度大学基礎データ 表2 学生」（資料 5-3-9-6）に示している。近年の入学者数は定員に対して、2014年度は1.38倍であったが、2016年度には

0.25 倍にまで減少した。しかし 2017 年度には 0.5 倍、2018 年度、2019 年度には 0.63 倍、と回復の傾向も見られる。研究科としては定員確保に向け、教養学部芸術学科との一貫教育体制の構築など一層の連携強化を図ることとしている。

2019 年度の収容定員に対する在籍学生比率は 0.56 となっている（資料 5-3-9-6）。

2019 年度の在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者 数比率（5 年間平均）
9	0.56	0.53

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点 1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点 2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

受け入れの適切性に関しては、毎年 4 月に開催される第 1 回大学院運営委員会において、入学センターから入試種別毎の要項人数を定めた「東海大学大学院入試要項人数（案）」が示され、その案を元に両専攻会議で点検ならびに審議が行われている。更にその後開催される第 1 回芸術学研究科教授会において、両専攻で纏められた案を踏まえ、「入試要項人数」に関する審議を行っている。（資料 5-3-9-6）

そしてその結果は入学センターに伝えられ、当該年度の要項人数が第 2 回大学院運営委員会において最終報告される手順となっている。（資料 5-3-9-7）

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

入学定員の確保と収容定員の充足に向け、基礎となる芸術学科との一層の連携が必要である。

5.4. 全体のまとめ

芸術学研究科では、研究科全体はもとより、専攻毎に「学生の受け入れ方針」や各種の「入学者選抜制度」ならびに「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を大学オフィシャルサイトや各種印刷媒体で明示している。また「入学者選抜」に関しては、研究科長、専攻主任、指導教員予定者などの合議を経た合格者案を、大学院運営委員会委員長の下に置かれた「大学院入試判定委員会」に於いて合議で決定されるなど、公正に実施している。

学生受け入れの適切性に関しては、年度毎に要項人数の審議確認が成されており、適切に管理されている。入学定員に対する入学者比率や、収容定員に対する比率に関しては、改善が必要な状況である。

5.5. 根拠資料

- 1-3-9-2 東海大学オフィシャルサイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/arts/>
- 5-3-9-1 東海大学大学院ガイド
- 5-3-9-2 東海大学大学院入学試験要項
- 5-3-9-3 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/
- 5-3-9-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-3-9-5 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-9-6 芸術学研究科教授会開催通知
- 5-3-9-7 2019 年度大学院運営委員会資料

2019年度 体育学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

体育学研究では、アドミッション・ポリシーを定め、東海大学オフィシャルサイトで公表している。受け入れ方針としては、意欲、基礎学力を有しているものを国内外から広く求めることを示している。また、入学者に求める力として、知能・技能・能力の観点から明確に示している（資料 1-3-10-1）。さらに、大学院ガイドでは修了生の主な研究テーマを掲載し、大学院における研究内容を具体的にわかるようにしている（資料 5-3-10-1）。また、体育学研究科独自のパンフレットを作成しており、修了要件や入学資格等について受験生にわかりやすく示している。これらパンフレットは、学会開催時や大学訪問時に教員が持参して配布し情報提供するよう工夫をしている（資料 5-3-10-2）。

以上のことから、学生の受入方針の適切な設定及び公表がなされていると判断できる。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程（資料 5-3-10-3）に基づき、体育学研究科からは入試企画専門委員として教員1名が選出されている。この規定に則って入試問題作成、採点、判定が実施されている。体育学研究科には、入試委員会が設置されている（資料 5-3-10-4）。また入学試験要項内には、入学試験の試験科目及び時間、面接諮問の要領が公表されている。また、受験及び修学上特別の配慮が必要な志願者に対して、その内容を回答した上で出願受付を行うなど、合理的な配慮に基づいた対応を行っている（資料 5-3-10-5）。

以上のことから、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制は適切に整備され、入学者選抜は公正に実施されていると判断できる。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度に入学した学生数は入学定員15名に対して、入学数は26名（1.73）である（資料5-3-10-6）。また、体育学研究科収容定員の30名に対し、在籍学生数50名（1.67）で定員に対して十分な数に達している（資料5-3-10-6）。

以上のことから、在籍学生数は収容定員に基づいて適正に管理されていると判断できる。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入学試験結果については、入試判定会議において点検・評価が実施され入学者数の適切な管理が確認されたのち、2020年度第2回大学院運営委員会で報告された（資料5-3-10-7）。また、体育学研究科では2013年に入学定員を10名から15名に増員したが、その後20名を超える入学者があり（資料5-3-10-8）、2021年度から20名に定員増加することにが了承された。（資料5-3-10-9）。

以上のように、学生受入の適切性については定期的に点検・評価、及び改善が行われていると判断できる。

5.2. 長所・特色

アドミッション・ポリシーに基づき、体育学研究科の特徴を活かした学生募集や入学者選抜が公正に行われている。特徴としては学部からの推薦入学者が一定の割合いることと、一度社会に出た卒業生が再教育の場として入学してきている（資料5-3-10-10）。現場に密接した研究を実践している特徴の一つといえる。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

学生の受入方針を定めて公表し、入学情報や募集要項においては、体育学研究科が求める学生像や入学者に求める学習歴、研究意欲等を明らかにしている。入学者選抜も厳密な手続きの基、公正に実施されていると判断できる。入学定員や収容定員については、定期的な点検・評価・改善も実施されている。

5.5. 根拠資料

1-3-10-1 東海大学オフィシャルサイト体育学研究科

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/physical_education/

5-3-10-1 大学院ガイド 2020

5-3-10-2 体育学研究科パンフレット

5-3-10-3 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程

5-3-10-4 2019 年度体育学研究科運営組織図

5-3-10-5 2020 年度東海大学院入学試験要項（秋学期一般入学試験）

5-3-10-6 2019 年度 大学基礎データ 表 2 学生

5-3-10-7 2020 年度第 2 回大学院運営委員会 2020 年度（春学期）大学院の入学試験結果について

5-3-10-8 体育学研究科在籍者数（2013-2019）

5-3-10-9 2020 年度第 2 回大学院運営委員会 2021 年度東海大学大学院入試要項人数

5-3-10-10 体育学研究科入試種別の入学者数

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

理学研究科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、「「本学の「建学の精神」と、「基礎科学を身につけ、応用できるバランスのとれた人生観・世界観を確立し、先端技術の開発・発展を推進できる能力をもち、科学技術の基礎を支える教育と研究を担う人材」の育成」という本研究科の教育理念・目標を理解し、真理の探究に情熱をもった者を国内外から広く受け入れる」と設定され、本学オフィシャルサイトにおける本研究科のアドミッション・ポリシー（資料 5-3-11-1）で公開されている。

アドミッション・ポリシーに、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準についての記載はないが、各専攻・コースに対応する学科の学位授与方針に示されている（資料 5-3-11-2）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

入学者選抜は推薦入試と一般入試の2通りの方法で行っており、また学生募集もアドミッション・ポリシーに基づき本学オフィシャルサイト等で公に行っている。

入学者選抜実施体制は、大学院入試専門委員会において、推薦入試・一般入試ともに厳正なる可否の判断がなされている。

一般入試においては、学力試験の結果に加えて、面接による勉学意欲の有無や大学院生としての資質の有無などの確認を行っている（資料 5-3-11-3）。入学者選抜における透明性を確保するために、結果を点数化し所見と共に保管している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度大学基礎データ 表2（資料 5-3-11-4）にある通り、2019年度の定員充足率は、理学研究科全体で0.59（数理学専攻0.13、物理学専攻1.17、化学専攻0.33）であり、専攻によって大きく上下しているが、理学研究科全体としては概ね適切に管理されている。収容定員に対する在籍学生数比率も、研究科全体で0.72（数理学専攻0.19、物理学専攻1.25、化学専攻0.54）であり、理学研究科全体としては概ね適切に管理されている。

2019年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
46	0.72	0.99

（資料 5-3-11-4 大学基礎データ 表2）

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

研究科専攻長会議において定期的に検証しており、特に推薦入試の推薦基準などについて検討を行っている。

5.2. 長所・特色

理学研究科のアドミッション・ポリシーにある「自ら学ぶ意欲をもち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れる」観点から、院生の国際会議での発表を奨励し、他大学の大学院生と切磋琢磨できる機会を持つことは長所といえる。

定員充足率に関しては理学研究科全体としては2019年度は7割程度で、前年度までの約1.00から大幅に減少している。

5.3. 問題点

理学研究科としては、充足率はやや減少しているが、数理学専攻では、年度によって定員充足率が1.00に達しないことがある。また、物理学専攻と化学専攻では、入学試験の可否判定において、充足率が1.20を超えないように十分検討を行う。

数学科と情報数理学科の学部教育において、大学院進学の意味や利点を説明し、大学院進学希望者を増やす。さらに、数理学専攻では、研究の魅力や修了後の就職について、大学院進学希望者が増えるような情報を学部生に提供する。

5.4. 全体のまとめ

理学研究科の学生の受け入れ方針は、適切に設定され、大学オフィシャルサイトで公開されている。入学者選抜は推薦入試と一般入試の2通りの方法で公正に行っており、学生募集も大学オフィシャルサイト等で公に行っている。

定員充足率、収容定員に対する在籍学生数比率はともに理学研究科全体としては概ね適切に管理されており、学生の受け入れの適切性について定期的に検証し検討を行っている。

5.5. 根拠資料

5-3-11-1 東海大学オフィシャルサイト 理学研究科 アドミッション・ポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>

5-3-11-2 東海大学オフィシャルサイト 理学研究科 ディプロマ・ポリシー 学位授与方針

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>

5-3-11-3 2019年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項

5-3-11-4 2019年度 大学基礎データ 表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

学生の受け入れは、本学オフィシャルサイト（資料 1-3-12-2）において工学研究科のアドミッションポリシーとして、「本学の『建学の精神』と本研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます」と明示され、入学を志す志願者に周知されている。また、東海大学大学院ガイド（資料 1-3-12-3）にも明示されている。研究科の学位授与基準及び学位論文審査基準は本学オフィシャルサイト並びに要覧（大学院）（資料 1-3-12-1）に明記されている。

出願資格は「2019 年度大学院入学試験要項」（資料 5-3-12-1）に記載されると共に、本学オフィシャルサイトの「入試情報」（資料 5-3-12-2）に記載されている。本研究科ではアドミッションポリシーに基づき社会人、留学生、他大学卒業生を受け入れる社会人特別入試（資料 5-3-12-3）、留学生入試（5-3-12-4）及び特別推薦入試（資料 5-3-12-5）を実施しており、多様な学習歴を有する国内外の志願者に門戸を開いている。また、外国での教育を受けた外国居住者に対して国際方式入試（資料 5-3-12-6）を実施しており、国際化の促進に努めている。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

工学研究科では推薦入試、一般入試、社会人特別入試を第1期、第2期の年2回実施しており、これらの実施方法については本学オフィシャルサイト（資料 5-3-12-2）において案内され、2019 年度大学院入学試験要項（資料 5-3-12-1）に詳述されている。また、2018 年度より第1期入試において特別推薦入試（資料 5-3-12-5）を実施している。

推薦入試は推薦基準内規に基づき学部から推薦を受けている。（資料 5-3-12-7） 推薦基準は学科毎に学生に周知され、学部長の推薦を受けた学生が推薦入学者として適否判定される。

一般入学試験の試験科目は「外国語、専門科目、面接試問」である旨、「2019 年度大学院入学試験要項」（資料 5-3-12-8）に明記され、本研究科の教育目標を達成できる学力水準にあるか否か判定される。一般入試における試験問題は、全問題を和文・英文併記として留学生の受験に配慮している。また、試験問題について、事前に研究科内委員会及び全学の入学試験委員会において正誤や内容の妥当性について精査している。社会人を対象とする特別入試では専攻分野に関する専門を含む面接試問によって学力水準が判定される。国際方式入試では出願資格を満たす外国居住者に対して書類選考（資料 5-3-12-6）により実施しており、留学生の増加による研究科の国際化を図っている。尚、留学生の受け入れに際しては安全保障輸出管理上必要な手続きを適正に実施した上で受け入れている。上記のいずれの入試においても公正、且つ適切な入試の実施及び入学者選抜が行われている。すべての入試業務は研究科長を責任者として各専攻長及び入試業務担当大学院教員が実務にあたり、試験当日は入学試験委員会委員長を責任者として実施している。

尚、「東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて」に沿って、障がいがある入学希望者に対して、正当な理由なく障がい由来する不当な差別的取扱いを禁止することを遵守しています。（資料 5-3-12-9）

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点 1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

工学研究科では 2016 年度にそれまでの 11 専攻から 5 専攻体制へと改組し、入学定員は研究科全体で 203 名となった。在籍学生数の定員充足率は 2016 年度 1.20、2017 年度 1.17、2018 年度 1.19、2019 年度 1.13（資料 5-3-12-10）であり定員を上回っている。下表に示すように全体として入学定員に対して十分な学生を確保している。ただし、医用生体工学専攻においては定員充足できない状況が続いており、今後は志願者増加のための取り組みが求められる。国際方式入試による合格者は、2019 年度第 1 期（2019 年度秋学期入学者）は 3 名、第 2 期（2020 年度春学期入学者）は 11 名であり、研究科の国際性の増進に貢献している（資料 5-3-12-11）。

2019年度の 在籍学生数	2019年度の入学定員に 対する在籍学生数比率	入学定員に対する在籍学生数比率 (改組後5年間平均)(資料5-3-12-9)
459	1.13	1.20

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

工学研究科では、学生の受け入れ方針について定期的に開催される専攻長・教務委員会において検証を行っている。その結果として、2017年度に他大学出身者がほとんどいない現状の改善を図るために、「他大学出身者を対象とする特別推薦入試制度」の設置を入試企画委員会に諮り、その承認を得て2018年度から実施されるに至った。(資料5-3-12-5) 2019年度は2018年度に続いて本特別推薦制度への志願者は無かったが、今後、他大学への案内促進等の活動を行い、本制度の周知を図る。また、志願者数及び入学者数の増加を図るために、工学部との連携を図り「大学院修士課程進学のおすすめ」(資料5-3-12-12)を作成し工学部学生へ配布するなど、学生の受け入れについて改善を進めている。また、専攻毎に進学対象となる工学部各学科学生への進学説明会の開催を実施するなど、進学者の増加に努めている。

5.2. 長所・特色

工学研究科のアドミッションポリシーにある「自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れる」観点から実施している国際方式入試では、本学と協定を結んでいるタイ・KMITL から多くの入学生を受け入れるなど、研究科の国際性の増進に貢献している。また、他大学の出身者に対する特別推薦入試の実施を開始するなど、多様な学習歴を有する学生を広く受け入れる姿勢を打ち出している。研究科全体の入学定員である203名を大きく上回る入学生を確保しており、国際性豊かな環境下で多くの大学院生が切磋琢磨できることは大きな長所といえる。

5.3. 問題点

1 専攻において定員充足できない状況が続いており、今後は志願者増加の取り組みが求められる。2018年度から開始した「他大学出身者を対象とする特別推薦入試」では2018年度、2019年度と志願者が無かったため、今後は志願者確保による本入試制度の定着を目指す。

5.4. 全体のまとめ

工学研究科は推薦入試、一般入試、社会人特別入試、国際方式入試を年2回実施しており、入学定員の203名を上回る入学者を確保している(資料5-3-12-10)。志願者を増加させるための取り組みを研究科全体として積極的に行うと共に、入試問題は和文・英文併記

として留学生の受験に配慮している。在籍学生数に占める留学生の割合も増加しており、国際性に富む学習環境が構築されている。

5.5. 根拠資料

- 1-3-12-1 2019 年度東海大学要覧（大学院）
- 1-3-12-2 東海大学オフィシャルサイト 工学研究科（修士課程） <http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/engineering/>
- 5-3-12-1 2020 年度東海大学大学院・入学試験要項
- 5-3-12-2 東海大学オフィシャルサイト「入試情報」サイト
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/m12.html
- 5-3-12-3 2020 年度大学院入学試験要項 「社会人特別入試実施要領」 pp.47-66.
- 5-3-12-4 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 English サイト
https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/types_of_admission.html
- 5-3-12-5 2020 年度大学院入学試験要項 「特別推薦入試実施要領」 pp.37-46.
- 5-3-12-6 国際方式入試要項（英語版）
- 5-3-12-7 2020 年度大学院・推薦入学試験要項（推薦入試用）
- 5-3-12-8 2020 年度大学院入学試験要項（一般入学試験科目） p13, p21.
- 5-3-12-9 東海大学オフィシャルサイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>
- 5-3-12-10 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-12-11 2019 年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移
- 5-3-12-12 工学部作成「大学院修士課程進学のおすすめ」

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本研究科での学生受入れ方針は、「大学院ガイド」（資料 5-3-13-1 p.31）、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-2）に記載し周知している。「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）や本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-7）において、出願資格を設定し本研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。以上より、学生の受け入れ方針を定め、公表している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学生の受入れ方針に則り、学生募集方法や入学者選抜方法を「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-7）、留学生に向けた英字サイト（資料 5-3-13-9）にて周知している。入試企画専門委員会および常任広報委員会に本研究科からも参加し（資料 5-3-13-10）、また研究科内に設置した広報委員会により広報活動の検討・承認を行っている（資料 5-3-13-10）。「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）において出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法、試験当日の持参品や不正行為の対処方法について記載し、受験生の不安低減に努めている。選抜や選考方法については「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）において、試験や調査書と合否判定との関連を明示している。また本研究科では大学院入試問題作成委員会を組織し、一般入試問題の作成・検討、採点を行っている。入学試験結果は、「東海大学 大学院ガイド」（資料 5-3-13-1）に記載し透明性を確保している。以上のとおり、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。また、障がいのある学生の受け入れについては、「東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて」（資料 5-3-13-8）に則っ

て対応している。「入学試験要項」にて、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は出願前に申し出るように注意喚起している。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

本研究科では修士課程の入学定員が情報通信学部の定員の約10%（30人）と設定され、2019年度の定員充足率は1.07と（資料 5-3-13-11）適切に管理されている。就職ガイダンスでの大学院進学の説明、3年次学生に向けた本研究科学生の活動内容の展示（資料 5-3-13-12）、1年次学生向けの「情報通信学概論」での大学院の紹介（資料 5-3-13-13）など、学部からの入学志望者の獲得に努めている。以上のとおり、適切な定員を設定した学生の受け入れとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受入れ方針の運用について入学後の追跡調査を入学センターで行い、その結果を入試制度の改革等に活用している。本研究科では、大学院入試問題作成委員会において、前回の評価を踏まえて試験問題の適切性を検証している。以上の通り、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価および改善・向上に向けた取り組みを行っている。

5.2. 長所・特色

本研究科では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生受け入れ方針を適切に定めて公表している。そして、学生受け入れ方針に基づいて、学生募集及び入学者選別の制度を適切に整備・運営し、入学者選抜を公平に実施している。また、在籍学生数を収容定員に基づいて適正に管理できている。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

情報通信学部の3年次生向けの広報に努めた結果、入学者が増加する傾向にある。他大学からの入学者が少数であることは課題であるが、情報通信学部からの内部進学者による定員充足を目標として、さらに進学説明会の回数を増やすなど、広報を一層強化する。

5.5. 根拠資料

- 5-3-13-1 東海大学 大学院ガイド 2019
- 5-3-13-2 東海大学オフィシャルサイト 情報通信学研究科アドミッション・ポリシー
- 5-3-13-3 2020年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-13-4 2020年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-3-13-5 2019年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-13-6 2019年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- 5-3-13-7 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 大学院入学試験
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/
- 5-3-13-8 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
- 5-3-13-9 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/>
- 5-3-13-10 2019年度情報通信学研究科・情報通信学部 各種委員一覧
- 5-3-13-11 2019年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-13-12 大学院研究発表会 2019年度発表要項及びホームページ
- 5-3-13-13 2019年度秋学期情報通信学概論シラバス

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

海洋学研究科の学生の受け入れ方針は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシーを設定している。

本学の「建学の精神」と、海洋学研究科（海洋学専攻）の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。

求める学生像

海洋学研究科（海洋学専攻）で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

入学者にもとめる力（知識・技能・能力）

海洋学研究科（海洋学専攻）

専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者。

海洋分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者。

以上が、大学オフィシャルサイト等に公表されている（資料 1-3-14-3）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

学部在籍時の GPA ランキングが上位 40%以内であれば推薦で受け入れている（資料 5-3-14-1）。また、一般入試に関しては、入試問題検討委員会を設置して、研究科長のもと試験科目に記載されている内容との整合性に関して十分に検討している。入試科目としては、英語と小論文（専門科目）となっており、専門知識が十分に審査されるよう工夫している。

（資料 5-3-14-2）。

障がいがある入学希望者に対して、正当な理由なく障がいに由来する不当な差別的取扱いがないように配慮している。（資料 5-3-14-3）

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019 年度に関しては、収容定員が 40 名であるが、30 名の確保にとどまった（資料 5-3-14-4）。したがって、収容定員に対する在学生比率は 0.75 であった。一方、修了予定者 18 名の内 1 名が修士論文を受理されずに修了延期となった（資料 5-3-14-5）。今後は、入学者全員が 2 年間で修了するよう、指導体制をさらに強化していきたい。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入学定員を確保することが、一つの目標ではあるが、入学者の学力レベルの判断も重要となってくる。推薦入学試験に関しては、成績上位 40%以内としているが、40%を超える場合には、推薦すべき学科主任から該当者の説明を求めている（資料 5-3-14-6）従って、点検・評価に基づく改善・向上は行っていると判断する。

5.2. 長所・特色

文理融合の研究科であるため、海洋文明学科や環境社会学科からの進学者も受け入れている。

5.3. 問題点

入学定員が 20 名であるが、2018 年度入学者は 15 名で、2019 年度入学者は 16 名であった。入学定員の確保が課題である。

5.4. 全体のまとめ

入学定員を確保するため、学部の教員への理解が必要である。各学科で成績上位 40%以内であれば推薦可能であるが、40%ではなかなか定員を確保できないのも現状である。その一方で、進学者の学力も心配である。本研究科一般入試での受験は、40%以内に入っていない学生がほとんどであるため、学部における進学意識の醸成と学力の向上が重要と考える。前者については、学部のキャリア活動の一環として位置づけることも一考である。また、外部の大学からの進学者を増加させることや他大学院への流出を減少させることも重要と考える。大学院のポスターを作成して、学内外へ配布することも検討している。

5.5. 根拠資料

- 1-3-14-3 東海大学オフィシャルサイト海洋学研究科 https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/marine_science_and_techno/marine_department/
- 5-3-14-1 2019 年度秋学期・2020 年度春学期 東海大学大学院入学者選抜基本要項【部外秘】
- 5-3-14-2 東海大学大学院 入学試験要項 p.30 試験科目
- 5-3-14-3 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>
- 5-3-14-4 2019 年度 大学基礎データ 表 2 学生
- 5-3-14-5 2019 年度 大学基礎データ 表 15 大学院における学位授与状況
- 5-3-14-6 推薦理由書

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（資料 5-3-15-1）において、医学研究科のアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）「医学研究科の教育理念・目標を理解し、臨床医学に具体的に還元する研究テーマを進んで作り上げ、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます。」を掲載し、広く周知を図っている。

「東海大学大学院入学者選抜基本要項」において、出願資格を設定し医学研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している（資料 5-3-15-2 pp. 21-22、26、30、35）。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載している（資料 5-3-15-3）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

「東海大学大学院入学者選抜基本要項」において入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。特に、出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。また、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの措置によって、学生の受験時の不安低減に努め、本学を志望する学生に必要な情報を提供することにより、公正で適切な入学者選抜を行っている。

選抜方法や選考方法については、「東海大学大学院入学者選抜基本要項」（資料 5-3-15-2）において、学科試験、小論文、面接試験、専門・実技試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

また、障がいがある入学希望者から、不当な差別的取扱いの解消を必要とする旨の意思表示があった場合、その実施に伴う負担が過重でない範囲において、意思表示者の権利利

益の侵害とならないよう、適切な合理的配慮の提供に努めることを明示している。

入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-15-3）に掲載しているほか、「東海大学 大学院ガイド」（資料 5-3-15-4 p.49）に記載し、本学を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

このように本学を志望する学生に必要な情報を提供することにより、公正で適切な入学者選抜を行っている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

<学士課程>

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程>

収容定員に対する在籍学生数比率

修士課程の収容定員に対する在籍学生数比率は、2019年度0.50であったが、5年間平均では0.60であり適切に管理されている。博士課程の収容定員に対する在籍学生数比率は、入学志望者が臨床研修医の人数と相関することもあり、0.52である（資料 5-3-15-5）。

研究分野によっては、海外からの留学生を厳正な合否判定により積極的に受け入れており、修士課程に1名および博士課程に1名の留学生が在籍している（資料 5-3-15-6）。

修士課程

2019年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
10	0.50	0.60

博士課程

2019年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
69	0.49	0.48

（大学基礎データ表2）

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や大学院進学に直結する学部や他大学からの卒業研究生選定の資料等に活用している。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

特になし。

5.4. 全体のまとめ

多様な医学研究分野を医学研究科ホームページ等（資料 5-3-15-7）で広報することにより、学内だけでなく、学外及び海外からも本学を志望する学生を受け入れることにつながっている。今後、英語での広報を拡充するなど、多様な学生を確保する方策をさらに充実させていく。

5.5. 根拠資料

- 5-3-15-1 東海大学オフィシャルサイト 医学研究科アドミッション・ポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/medicine/>
- 5-3-15-2 2019 年度秋学期・2020 年度春学期東海大学大学院入学者選抜基本要項
- 5-3-15-3 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/
- 5-3-15-4 東海大学大学院ガイド
- 5-3-15-5 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-15-6 2019 年 11 月時点 研究科別大学院在籍人数表（留学生）
- 5-3-15-7 東海大学大学院医学研究科ホームページ
<http://www.med.u-tokai.ac.jp/daigakuin/web/kyoikutaisei.html>

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本研究科のアドミッション・ポリシーは、「東海大学オフィシャルサイト」に明記されている（資料 5-3-16-1）。また、入学者にもとめる力（知識・技能・能力）として、看護学分野または保健福祉学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力及び論理的思考力等を明示している（資料 5-3-16-1）。入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準は「大学院入学試験要項」に示している（資料 5-3-16-2）。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

「大学院ガイド」に記載しているように、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている（資料 5-3-16-3）。「大学院入学試験要項」において出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している（資料 5-3-16-2）。また、大学全体の組織である入試企画専門委員会・常任広報委員会において、本研究科からも委員が参加し、入試および広報活動の検討を行っている。さらに、入学者選抜実施のための体制としては、各専攻教務委員会、合同教務委員会が責任を担っている（資料 5-3-16-4）。

障がいがある志願者については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「大学院入学試験要項」において出願前に申し出るように注意喚起を行っている（資料 5-3-16-2）。申し出があった志願者については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容の組み合わせを行い、配慮内容については合意の上で出願を認めている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

2019年度の本研究科看護学専攻の大学院生は定員20名に対し16名、保健福祉学専攻では定員20名に対し3名であった（資料5-3-16-5）。収容定員に対する収容定員充足率は0.48となり、充足率の低下傾向が認められるが、厳正な合否判定を行うとともに、収容定員に基づき適正に管理している。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入試結果等を受け、大学院教授会等で審議し、改善を図っている。看護学専攻では、「研究コース」と「CNS（専門看護師）コース」の2本立てとした（資料5-3-16-6）。

5.2. 長所・特色

健康科学研究科では上述したように、高度専門職業人育成という目的のもと、社会の要請に応じた体制を整えてきた。また、毎年中国からの留学希望があり、個別面接を行い慎重に対応するとともに、研究生制度を活用するなど、受け入れ体制を整えている。

5.3. 問題点

収容定員に対する在籍学生数に低下傾向が認められるため、広報等の充実を図りたい。

5.4. 全体のまとめ

これまで多くの社会人大学院生を受け入れ、高度専門職業人育成の成果を上げてきている。今後も、これらの体制をより強化していきたい。

5.5. 根拠資料

5-3-16-1 東海大学オフィシャルサイト 健康科学研究科 アドミッション・ポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/health_science/

- 5-3-16-2 2019 年度東海大学大学院 入学試験要項
- 5-3-16-3 2019 年度 東海大学大学院ガイド
- 5-3-16-4 健康科学研究科委員会構成
- 5-3-16-5 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-16-6 健康科学研究科オリジナルサイト 看護学専攻 カリキュラム
http://mnwm.ihs.u-tokai.ac.jp/web/kango_curriculum.html

[第5章] 学生の受け入れ

5.1. 現状説明

5.1.1. 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程の編成・実施方針を踏まえたアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を適切に設定し、公表を行っているか。

評価の視点2：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）において、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の公表を行っているか。

本研究科の教育目標に沿って学生のアドミッション・ポリシーを定め、「大学院ガイド」（資料 5-3-17-1 pp.42-43）と本学オフィシャルサイト（資料 1-3-17-5）において明示して公表している。また、求める学生像および入学者に求める力についても本学オフィシャルサイト（資料 1-3-17-5）に明示している。

5.1.2. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定しているか。

評価の視点2：責任の所在を明確にした入学者選抜実施体制を適切に整備しているか。

評価の視点3：公正な入学者選抜を実施しているか。

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施しているか。

農学研究科の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに基づいて、その入学試験が設定されている。その応募方法と選抜方法については「大学院入学試験要項」（資料 5-3-17-2）に詳細を公表して組織的に公正かつ適切に募集している。

各入学者選抜は、農学研究科長の指揮・監督のもとで厳正に実施されている。受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者については、「大学院入学試験要項」（資料 5-3-17-2 p.5）において出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出があった志願者については、本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

5.1.3. 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員、在籍学生数において、以下の項目を適正に管理、運営しているか。

＜学士課程＞

1. 入学定員に対する入学者数比率
2. 編入学定員に対する編入学生数比率
3. 収容定員に対する在籍学生数比率
4. 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程＞

収容定員に対する在籍学生数比率

農学研究科は、農学専攻1専攻を設置し、その定員を各学年12名、収容定員24名としている（資料5-3-17-3）。2019年度の在籍者数は1年次生5名および2年次生5名であり、収容定員に対する充足率は0.42と半数未満を示した（資料5-3-17-4）。このことは2016年の熊本地震による研究環境の悪化が影響しているものと考えられる。したがって、農学部および総合農学研究所等と協力して暫定的な熊本校舎での研究環境を改善させることに努めるとともに、大学院紹介や教員情報の発信する機会を増やして広報活動を充実させ、内部進学者の増加を図る。また、外部受験者に対して、2020年度から春学期特別推薦入学試験を導入した（資料5-3-17-2）。

5.1.4. 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点1：学生の受け入れについて、適切な根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価を行っているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

入試制度については、入学センターを中心に組織的に検討されており、農学研究科からは入試企画専門委員が関与している。本研究科内には、学生募集および入学者選抜のあり方について定期的に検証する委員会等の組織は設置されていないが、随時必要な情報を教員間で共有するようにしている。また、検討が必要な場合は研究科評価委員会等で予め審議し、研究科教授会で議論後承認を得ることになっている（資料5-3-17-5）。2019年度は教員の異動があったため、次年度以降の入試へ向けた専門試験科目の確認と検証を行った（資料5-3-17-6）。

5.2. 長所・特色

特になし。

5.3. 問題点

2016年の熊本地震後、内部進学率が低くなっている。今後は熊本校舎における研究環境の改善および広報活動の充実に努め、内部進学者が増加するように注力する。

5.4. 全体のまとめ

農学研究科では、学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を適切に設定して「大学院ガイド」や本学オフィシャルサイトを通じて公表している。また、学生募集および入

学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。今後は、研究環境の改善と広報活動の充実を図り、定員充足率を向上させる。

5.5. 根拠資料

1-3-17-5 東海大学オフィシャルサイト（農学研究科農学専攻）

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/agriculture/>

5-3-17-1 東海大学大学院ガイド Graduate School Guide 2020

5-3-17-2 2020 年度大学院入学試験要項 春学期一般・春学期特別推薦入学試験・社会人特別入学試験（第1期・第2期）

5-3-17-3 2019 年度第2回農学研究科教授会 資料 8-2（2020 年度東海大学大学院入試要項人数【確定版】）

5-3-17-4 2019 年度 大学基礎データ 表2 学生

5-3-17-5 2019 年度第2回農学研究科教授会 資料 1-1（議事録）

5-3-17-6 2019 年度第1回農学研究科教授会 資料 6（2019 年度農学研究科教員名簿）